

# 国語科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

### 内容面

- 題材の読み取りが学習活動の中心で、生徒の主体的な表現等が重視された授業が行われていないこと。例えば、生徒への発問にしても、答えの幅が狭く、一問一答に近い場合が多い。

### 方法面

- 教員主導の知識の伝達型授業が中心で、一から十まで説明してしまうこと。特に話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われず、指導方法の蓄積が少ない。

これらは「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）平成28年12月21日」でも同様のことが指摘されており、平成30年告示学習指導要領において、科目構成の改善が行われるとともに、各科目の各領域における授業時数が示されることになった。（例えば、「現代の国語」の授業時数のうち、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は7割程度。



## 上記課題を解決するために必要だと考えられること

- 題材の読み取りだけでなく、知識や技能を活用して、主体的に思考・判断・表現する言語活動を重視すること。
- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習において、生徒の考えを引き出すワークシートを生徒の学習到達度に応じて作成すること。

そうすることで、

- 授業で扱った題材を読み取ることだけでなく、他の題材や資料を読み取ったり、表現したりすることにつながる。
- 自分の考えを整理し、可視化することによって、つまづきに気づくことや振り返りをすることも容易にできるようになる。
- 生徒同士の協働が生まれ、様々な考えに触れることができ、学習効果の高まりが期待できる。
- 「学び方を学ぶ」ということにもつながる。

思考



判断



表現



言語活動を重視した  
パフォーマンス課題

「話すこと・聞くこと」



「書くこと」

主体的・対話的で深い学びの実現<sub>2</sub>

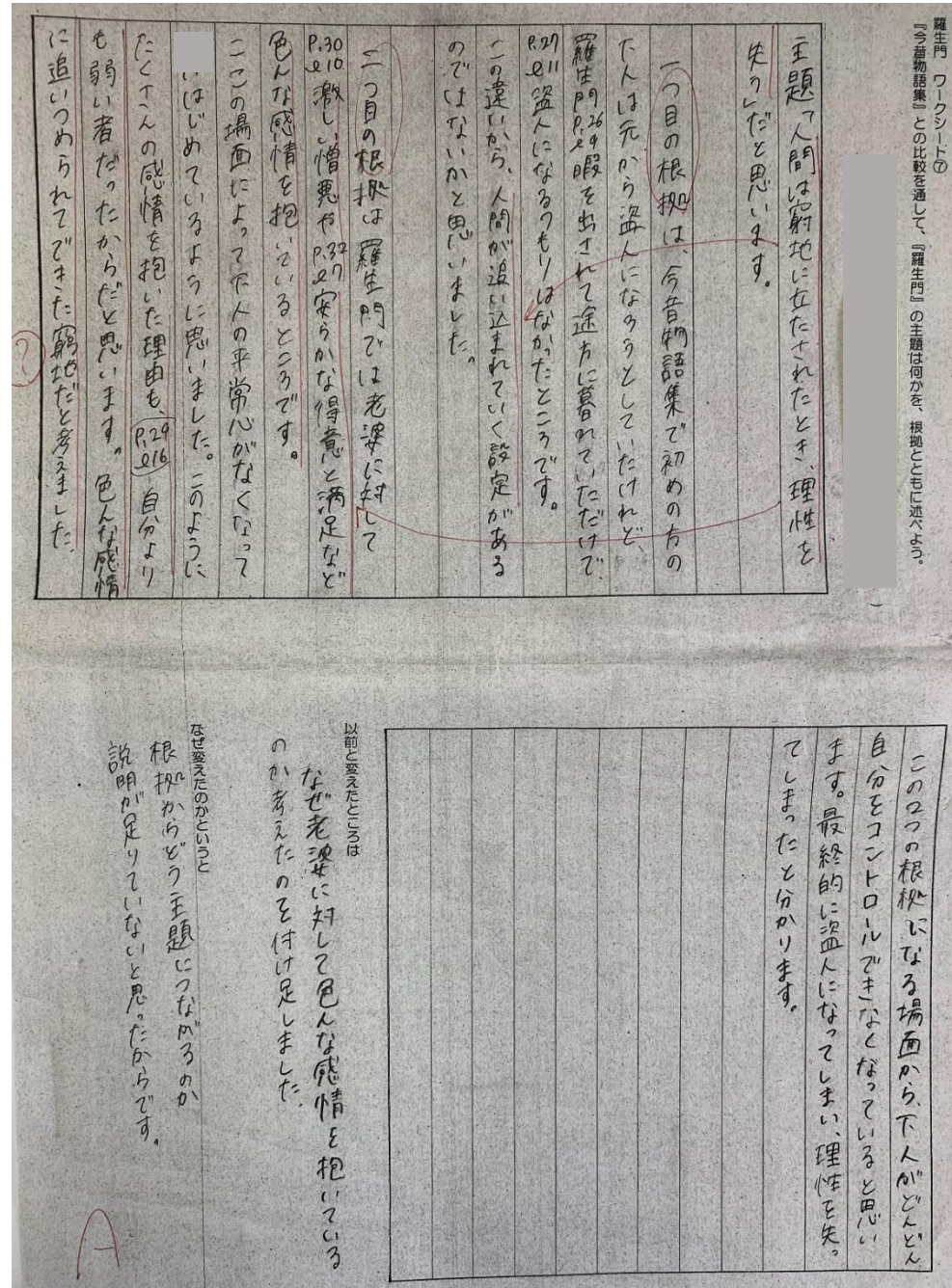
# 課題解決に向けた具体的な実践例

## ● 主体的な言語活動を重視したパフォーマンス課題

『羅生門』を題材に、『今昔物語集』との比較を通して、作品の主題について考察し、根拠とともに述べることを目標にパフォーマンス課題を課した。生徒が設定した主題は、大きく三つのパターンに分類することができた。

- (Ⅰ) 「心情の変化」「下人の葛藤する心」など、心情面について問題とするもの
- (Ⅱ) 「善悪の判断基準の難しさ」「追い詰められた状況での悪事は許されるのか」など、善悪や道徳を問題とするもの
- (Ⅲ) 「人間の生きることへの執着心」「客観的に物事をとらえることの大切さ」など、人間の性質や価値観を問題とするもの

「思考・判断・表現」の評価では、着目した根拠をそのまま素材として主題を抽出すれば(Ⅰ)のようなパターンになり、そこに生徒が自分なりの解釈を加えて主題を設定するに従って、(Ⅱ)や(Ⅲ)のようなパターンへと深化していくことが明らかになった。つまり、主題の違いは、生徒の「読みの深さ」の違いなのであり、この「読みの深さ」の違いを見取ることができるように、判断基準を設定するとよいのではないかと考えられる。



●「書くこと」の領域の単元において、自分の考えを引き出すワークシート①

文章を書く場合、「自分のいたいこと」を伝えることが大切です。相手に伝えるためには自分のいたいことをしっかり書くのですが、その際に「なぜそうなのか」の「理由」を示さないと、わかりにくい文章になってしまいます。そこで、今回は「型」を使って、理由の示し方を練習します。

- ①あなたは、犬と猫のどちらが好きですか。②～④の作業をしながら、あなたの考えを文章にしよう。
- ②まずは、自分の好きな方を決めて、次の□に書き入れよう。
- ③次に、なぜそれが好きなのか、「理由」を10個考え、思いついた順番に書こう。
- ④この中から三つを選んで、実際に原稿用紙に記入しよう。

ポイント

目的や理由を明記することで、これからの学習のねらいを理解することができます。

ポイント

ここで基本の「型」を身につけます。生徒の学習到達度に応じて、「型」の示し方を調整します。



●「書くこと」の領域の単元において、自分の考えを引き出すワークシート②

今回は、発想法です。感覚的な要素も含んでいますが、なるほどと思えば、しめたもの。この方法を用いると、自分がほんとうに「いたいこと」を絞り込めるようになります。

- ①配付した写真を見て、気づいたことや考えたことなどを10項目挙げてみよう。  
どんなことでもかまいません。とにかく順番に10項目挙げるのがポイントです。
- ②前半の5項目の理由を使うことについて、(メリット・デメリット)を挙げてみよう。
- ③後半の5項目の理由を使うことについて、(メリット・デメリット)を挙げてみよう。

ポイント

前半に挙げた理由は、多くの人が気づきやすいという点に、後半に挙げた理由は、個人の感覚によるが独自性があるという点に気づかせます。

●「書くこと」の領域の単元において、自分の考えを引き出すワークシート③

ワークシート①②で、理由の選び方を考えてきました。今回は、これまでの知識を使って、「相手に応じて」最適な理由を選ぶということを練習します。

- ①ワークシート①の「犬（猫）を好きな理由」と「型」を使って、「あなたの友人」に伝える文章を作ろう。
- ②なぜその理由三つを選んだのか、選んだ理由を説明しよう。
- ③ワークシート①の「犬（猫）を好きな理由」と「型」を使って、「初めて話す人」に伝える文章を作ろう。
- ④なぜその理由三つを選んだのか、選んだ理由を説明しよう。

ポイント

目的や意図、相手に応じて、文章全体を整えたり、自分の文章の特長や課題を捉え直したりできるようにします。

● ワークシートを応用した考查問題例

問1 あなたは来年、遠足で行くとしたら奈良と京都のどちらが良いですか。どちらかを選択し、その理由を10個挙げなさい。

問2 問1で挙げた「理由」の中から三つを選び、「友人」に伝えるための文章を作成しなさい。ただし、文章は次に示した例と同じ型を使用し、解答欄に従って書くこと。

《例》私が遠足で行きたいのは、[ 京都 or 奈良 ] である。

理由は三つある。

一つめは、[ 理由A ] 。

二つめは、[ 理由B ] 。

三つめは、[ 理由C ] 。

だから私は、[ 京都 or 奈良 ] に行きたいのである。

問3 問2で使用した理由について、なぜその三つを選んで文章を書いたのか。説明しなさい。

ポイント

生徒の学習到達度に応じて、「型」の示し方を調整します。

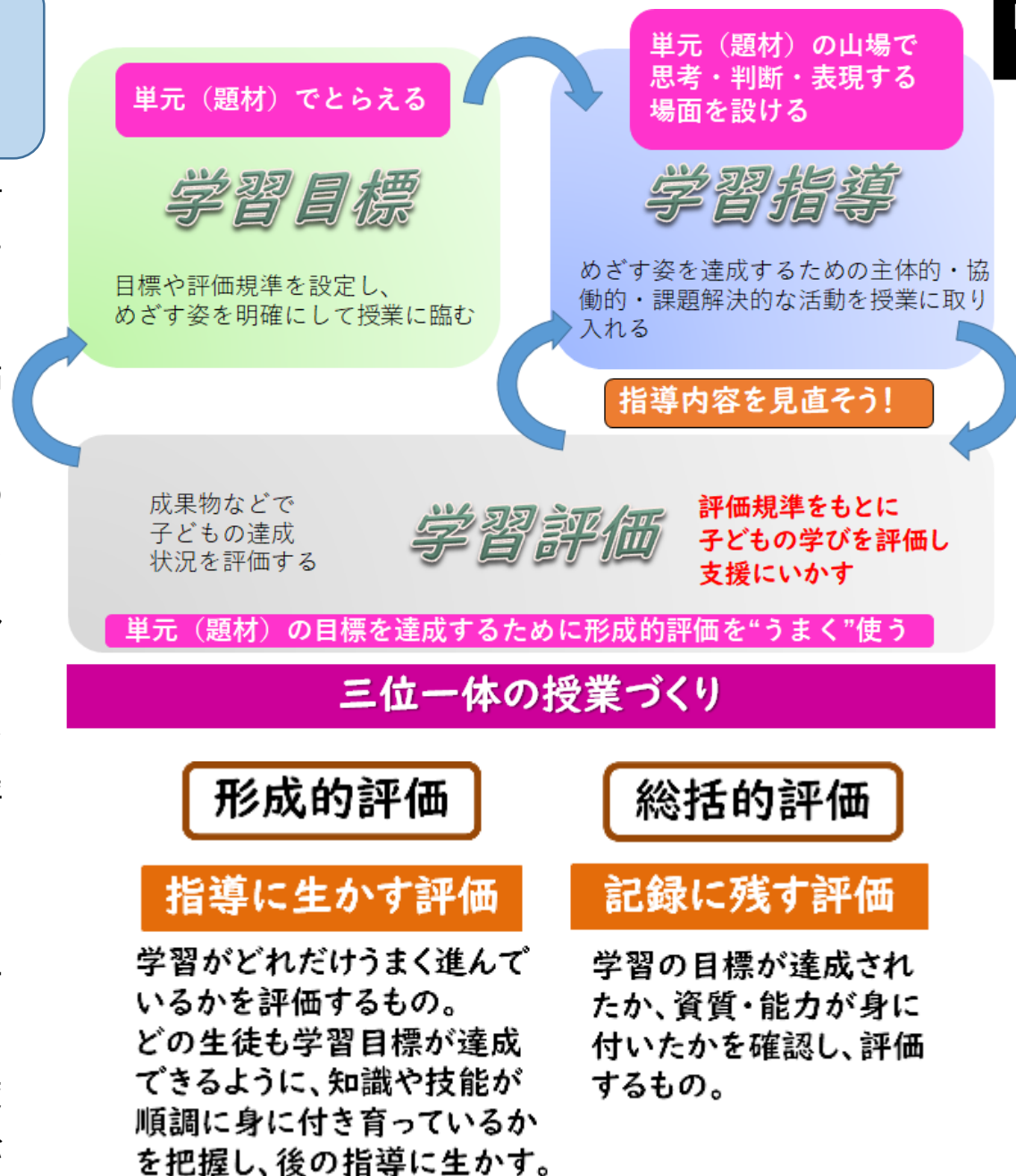
ポイント

文章の巧拙だけでなく、本単元で身につけるべき資質・能力が身についているかを見取るようにします。



## 生徒の成果物や実践の振り返りから考えられること

- 主体的な言語活動を重視したパフォーマンス課題を評価する際、「思考・判断・表現」については、主題の違いを「読みの深さ」として評価することができた。一方、「主体的に学習に取り組む態度」については、明確な基準を設定しにくかったことから、再度単元計画を振り返り「粘り強さ」や「学びを調整する力」がよく表れている場面を再検討した。その結果、何度も主題について考えることが「粘り強さ」で、他者との意見交換を通して自分の不十分な点・矛盾点等に気づくことが「学びを調整する力」であると再確認した。これらの「力」が形として最も表れているのは、最後に主題を書くワークシートではないかと考えられる。総括的評価として、主題を書くワークシートと振り返りシートの記述を総合的に評価することが「主体的に学習に取り組む態度」のよりよい評価に繋がるのではないかと考えられる。
- 自分の考えを引き出すワークシートについては、これまですべてのワークシートを評定の材料にしていたが、生徒の理解度が授業毎に分かり、つまづきに気づくことができるメリットはあるものの、教員の「評価疲れ」を軽減するためには形成的評価と総括的評価に分けて考える必要があると考えられる。



# 地理歴史・公民科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- 入試等に向けて教科書の内容を網羅的に取り扱い、知識を覚えることを中心に授業が行われていて、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていない。
- 授業において、プリントの空欄に新出語句を埋めさせることや、いわゆる一問一答形式の発問をすることが多い。
- 各科目、各単元での育成をめざす資質・能力があまり具体的にイメージできていない。特に「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価について理解が深まっていない。

教科書の範囲、全部やらなきゃ！



江戸時代の最期の将軍は誰？



主体的に学習に取り組む態度って、どんなところをどうやって見取るんだろう？



## 上記課題を解決するために必要だと考えられること

- 生徒が自分の考えを答えるような発問をしたり、自分の考えをまとめるようなプリントの工夫をしたりすること。
- 生徒が学んだことを生活の中で生かすことができるようにすること。
- 単元の集大成として生徒が主体的に課題の解決に取り組むようなパフォーマンス課題を取り入れてみること。

今も続いている地域紛争や戦争には、こういった背景があるのだろうか？



法の意義や役割って何？



江戸時代はなぜ終わったのか？



大きな町の近くに大きな河川があるのはなぜだろう？





## 課題解決に向けた具体的な実践例

### ●課題解決に向けて教科として話し合ったこと

- ・生徒の「主体性」を引き出すために、パフォーマンス課題等を使って授業を実施するなら、  
 どのような点に留意すればいいのだろうか。

単元の目標設定に際して、育成をめざす「見方・考え方」を「本質的な問い」に対応した「永続的理解」の形で明確化する。そして、パフォーマンス課題に取り組む過程を通じて目標とする資質・能力が適切に身に付いたかを評価する。

#### 「本質的な問い」

- ・「～とは何か？」と概念理解を尋ねたり、「～するには、どうすればよいか？」と構想を尋ねたりする問い。
- ・個別の知識の再生にとどまらず、「見方・考え方」を働かせざるを得ない問い。

#### 「永続的理解」

- ・大人になって個別事象の知識やスキルの詳細を忘れ去ったとしても、なお残っているべきであるような重要な理解。
- ・学問の中心にあり、新しい状況に転移可能なもので、生活場面など様々な状況において価値をもつような理解。

#### 「パフォーマンス課題」

- ・さまざまな知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題。

【実践例 日本史】 単元 「幕藩体制の確立」

○単元における「本質的な問い」

戦国時代から江戸時代にかけて支配体制はどのような要因で変化をしていくのか。どうすれば、安定的な社会をつくることができるか。

○パフォーマンス課題例

あなたは4代将軍家綱の代にタイムスリップしてその時代の老中と入れ替わりました。江戸幕府による支配体制が安定して長く続いていくためにどのような予算を考えますか？家光の時代までに起こった出来事を予算編成の根拠にして作成してください。また、その際には21世紀で起こっている類似する出来事を例にしながら他の老中が納得するような説明をしてください。

# ●パフォーマンス課題の実践

## □単元の指導と評価の計画

- ・科目 「倫理」
- ・単元 「日本の仏教思想」
- ・単元の目標

### 【知識・技能】

日本における仏教思想発展の意義を理解し、その知識を身に付けているとともに、仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する資料を収集し、適切に活用できる技能を身に付ける。

### 【思考・判断・表現】

日本文化の発展と仏教との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現できるようになる。

### 【主体的に学習に取り組む態度】

日本において独自の発展をした仏教の特質を意欲的に探究しようとする態度を養う。

### ・単元の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
日本における仏教思想発展の意義を理解し、その知識を身に付けているとともに、仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する資料を収集し、適切に活用できる。	日本文化の発展と仏教との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。	日本において独自の発展をした仏教の特質を意欲的に探究しようとしている。

## ・単元の指導と評価の計画

○…形成的評価（記録に残す評価） ◎…総括的評価（指導に生かす評価）

時	学習内容	評価の観点			主な評価規準 (評価方法)
		a	b	c	
第1時	○仏教の受容 外来宗教である仏教の移入と展開について学習し、神仏習合した宗教の在り方を考える。	◎			【a】日本における仏教思想発展の意義を理解し、その知識を身に付けている。 [ペーパーテスト]
第2時	○仏教の日本的展開－鎌倉仏教 鎌倉新仏教の宗教思想の特徴を理解する。 親鸞の「自然法爾」や道元の「修証一等」に共通する、日本人の人生態度について考える。	◎	○		【a】日本における仏教思想発展の意義を理解し、その知識を身に付けている。仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する資料をWebページ等から収集し活用している。 [ペーパーテスト] 【b】日本文化の発展と仏教との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 [ワークシート]
第3時 (本時)	○仏教と日本文化 仏教的な伝統文化や美意識の形成を理解し、自らの考えを持つようになる。		◎	○	【b】仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する内容を理解し、適切に説明できる。 [ワークシート] 【c】日本において独自の発展をした仏教の特質を意欲的に探究しようとしている。 [ワークシート]

・本時の目標

「仏教は日本人にどんな美意識をもたらしたか」について考察し、自らの考えを持つ。

・本時（第3時）の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業の振り返りと本時の目標の確認をする。</li> <li>・仏教思想の受容と日本人の美意識について、仏教が日本の文化や文芸の形成に大きな影響を与えてきたことを理解する。</li> </ul>	ワークシートを使って、いろは歌、徒然草などの作品にふれ、日本人の美意識を具体的にイメージできるようにする。	
展開 30分	<p>【パフォーマンス課題】 「平家物語を読んで、鑑賞文を書こう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『平家物語』の冒頭を読み、仏教思想に基づく日本的な美意識がどのように表現されているかを解説する鑑賞文を作成する。</li> </ul>	<p>感想文と鑑賞文の違いをはっきりと理解させる。</p> <p>各自、クロームブックからファイルにアクセスし鑑賞文を入力させる。</p>	<p>【b】仏教的な用語や世界観について説明し、仏教的な美意識についての解説もできている。[ワークシート]</p> <p>【c】鑑賞文の作成に、粘り強く取り組んでいる。[ワークシート]</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の振り返りを行う。</li> <li>・他の生徒の鑑賞文を読み、自分の鑑賞文との合致点、相違点などを考える。</li> </ul>	鑑賞文をクラス全体で共有できるようにする。	

ポイント

仏教思想の単元のまとめとして、仏教思想が日本の文化・芸術に大きな影響をもたらしたことを学びます。その上で、その知識を活用して、他教科で既習の古典作品（『平家物語』冒頭）の鑑賞文（×感想文、×訳文）を書くことに挑戦します。仏教的な見方・考え方を身につければ、身の周りにある日本の文化・芸術の中にかくれた仏教思想に気付くなど鑑賞力が深まることを体験的に分かってほしいと考えて、今回のパフォーマンス課題を設定しました。

ポイント

今回のパフォーマンス課題は、平家物語のどの部分に仏教思想が表れているのかを考え、判断し、それを鑑賞文と言う形で表現することにより、「思考・判断・表現」の視点について評価しました。（知識を覚えるのではなく活用する力、物の見方・考え方を習得し、それを適用する力を育てる。）

□生徒による成果物

\* 「おおむね満足できる」状況（B）

「シンプルな鐘の音も儚く散っていくような響きで美しい。沙羅双樹の花の色のように人間もいつか色褪せる。長く続かず、いつかは代わり、消え果てる。いつか消え果てるのが今日であっただけで、塵のように儚く散っていく。夢の中のようだといっている。

4行全てに形あるものはいつかは無くなってしまおうという仏教思想が組み込まれており、その中にも春の夜の夢のごとしのような、儚くも美しいといった無常観なども見られ、どんなものもいつかは消えてしまうのだから、平家も滅んでしまったという筆者の考えが見られる。」

\* 「十分満足できる」状況（A）

「まず、最初の2文では、平家の没落を仏教の考え方に例えて話している。これは祇園精舎などの、仏教用語を使っていることから見られる。そして、残りの文では、最初に栄華は長く続かないことを書いて、その後の文で、それを風や夢のように移ろいやすいもので例えている。そのように例えた理由は無常観という美意識から来ている。つまり作者は、滅びゆく平家にも美しさを感じていた。

平家が滅んでいくとき静かに成仏してもらえるように鐘を鳴らし、たとえきれいな花でもいつかは枯れる勢いがあってもそのままだと衰退していくことを表し、だんだん衰退していく姿を見て儚さと同情を感じる。だけど枯れた後にもどこか美しさを感じ滅んでしまった平家にもどこか美しさは残ると表現されている。」

□「観点別学習状況の評価の判断基準」の設定

判断基準	「十分満足できる」状況（A）	「おおむね満足できる」状況（B）
評価規準	仏教的な用語や世界観について理解し、説明することができるうえに、仏教的な美意識についての解説もできている。	仏教的な用語や世界観について理解し、説明することができる。
【b】		



「努力を要する」状況（C）と判断された生徒に対する指導のてだて

机間指導等を行い、他の生徒の作品や活動を参考にし、どのようにすればよいかを解決できるよう促す。

仏教思想に関する用語（諸行無常、無常観等）をよく理解せず、使いこなせないまま書いた鑑賞文もありましたが、平氏の運命と諸行無常や無常観を結び付けることができたり、さらに滅びゆくことに美しさや愛おしさを感じる感性（仏教的な美意識）との関連にまで言及できているものがあつたりして、主体的に取り組んでいる様子が見えました。



## □パフォーマンス課題を振り返って

今回のパフォーマンス課題では、解釈したり関連付けしたりしようとしているかといったことも見取ることができるのでは！



鑑賞文提出後に、倫理で学んだ知識をもとに作品を鑑賞するという課題をしてみてもう一度どうだったかを生徒自身に振り返ってもらう（倫理を学ぶ意味にかかわるメタな問いをする）ことで、学んだ知識をどのように使えるかを考えさせることもできるのでは。またそれを「主体的に学習に取り組む態度」として見取れるのでは！

鑑賞文提出後に、日常に潜む仏教的美意識を探して報告するという課題を与えて、日常生活で見聞きすることの中に、少しでも仏教的美意識との関連が見い出せそうなものがあれば、その理由（仮説でOK）とともに提出させることで、探究的態度を育てたり、育ったかどうかを見取ったりすることができるのでは！



この単元でどのような資質・能力を身につけさせたいか（永続的理解）、もっと具体的に明確にしておけば、「問い」や「ふりかえり」等の効果的な設定ができたのではないだろうか！

一枚ポートフォリオ（OPP）や  
振り返りシートを活用

1枚ポートフォリオ 【地理A】第1編第3章③ 南アジアの暮らしを学ぶ

■南アジアの人々の宗教と生活とのかわりや、社会の変化について考えよう。  
【学習前】思い浮かぶことを書き出そう。 【学習後】学習をふまえて説明しよう。

①南アジアの成り立ち（教p.83～84）  
南アジアの自然環境や成り立ちについてまとめよう。

②多言語・多宗教とヒンドゥー教（教p.85）  
南アジアの言語や宗教についてまとめよう。

③南アジアの農業の地域性と緑の革命（教p.86）  
南アジアの農業の変化と人々の生活に与えた影響について

④ICT産業の成功と課題（教p.87）  
インドのICT産業の特徴と課題についてまとめよう。

1・ワークシート①②単元ごとの振り返りかえりワークシート

年 組	番 名前	日付	年 月 日
教科・科目		単元テーマ	

■この単元の学習をはじめたときと、学習し終わったときの感想をメモしておこう。

はじめ

おわり

■この単元の学習で、はじめて知ったことや、面白いと思ったことをまとめよう。

■この単元の学習で、わからなかったこと、これから調べたいことをまとめよう。その後、解決できたら右側の欄にメモしよう。


## 生徒の成果物や実践の振り返りから 考えられること

育成すべき資質・能力を明確にすることが、生徒が社会的な見方・考え方を働かせ、より主体的に課題解決に取り組むパフォーマンス課題を工夫することにつながり、思考力・判断力・表現力等とともに主体的に学習に取り組む態度を育み、その状況を見取ることができるのではないか。

### ポイント

生徒の「主体性」を引き出すために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりとして、以下の点に留意しながら「単元における指導と評価の計画」を作成する。

- 単元における「永続的理解」を明確にし、「本質的な問い」を設定する。
- 単元の指導の計画において、「永続的理解」へと向かって学びがすすんでいく構造にし、「永続的理解」に到達しているかどうかを問うことをめざす。（学びの舞台の設定）
- 学びの舞台において、パフォーマンス課題は、「思考力・判断力・表現力等」が身についたかどうかを見取することを中心に据え、設定する。
- 「主体的に学習に取り組む態度」をパフォーマンス課題によって見取る場合、以下のような機会や要素が組み込まれるよう工夫する。
  - ・「最後の感想ではなく形成的な自己評価という意味での振り返りとそれをもとにした自己修正（自己調整）の機会」
  - ・「その気になったら自らもっともっと深めたり広げたりできる要素」
  - ・「新しく獲得した枠組み（社会科の概念）を用いて世の中を自分なりに捉える（理解を再構成する）ような機会」
  - ・「継続的な努力を必要とする機会」

# 数学科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- 数学を用いて現実にかかる様々な事象を考えたりする機会が少なかったり、様々な現象が数学を用いることによって説明できたりすることなどを知る経験がなかったりすることなど、**数学のよさを感じることができる機会が少ないこと。**
- 授業において、「教員が定理や公式の紹介をし、それらを用いて問題を解く方法を示してから、生徒が練習問題に適用すること」や「学習したことを生徒ではなく教員が分類・整理してまとめること」といった**教員が教え込むスタイルが多く**、生徒が自分で定理や公式を**発見したり、学習したことを分類したりする機会が少ない。**

これらの背景には、

- 教科書の内容をすべて確実に教えるためには、教員が教え込む必要があるといった考えがあったり、
- 生徒がじっくり考えることができる時間を与えても、生徒が意図どおり取り組まないのではないといった不安から、そういった時間を設けることに踏み切れないといった教員の固定観念や意識がある。

数学的活動って言うけれど、教科書の内容とか離れたものだから難しい！

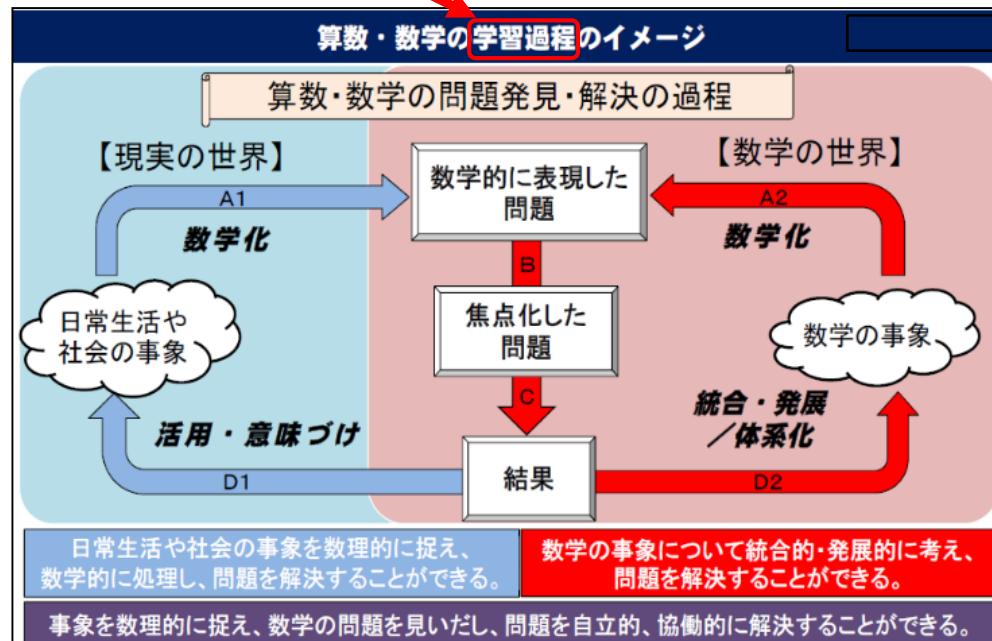


まず知識や技能が定着してからでないとうちの生徒は考えられないはず。

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。

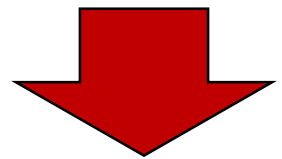
機会をつくるには数学的な見方・考え方を働かせた『**数学的活動**』を充実させる。

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する**過程を遂行**すること。



上記課題を解決するために必要だと考えられること

まず内容を教えて適用させる授業



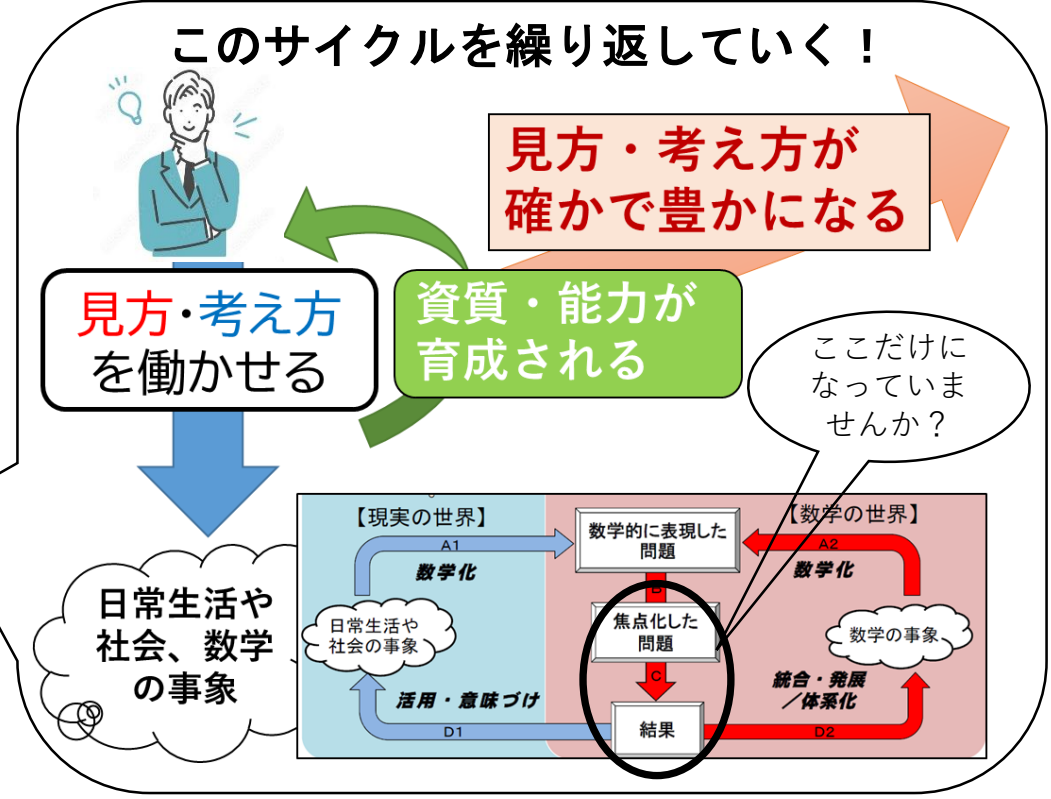
ではなく

事象を数理的に捉えることから始め、問題発見・解決の過程を意識して資質・能力を育成していく授業を実施すれば、生徒は数学を主体的に学ぶ！

そのような授業ができれば、生徒たちは数学を、

- **主体的に** (例えば、「考えてみたい」「どうにかしたい」となっている、授業が終わっても考えている、自ら新たな問題を考えている)
- **対話的に** (例えば、熱中して「ああでもない」「こうでもない」と説明し合って・議論していて気づいたらいつのまにか時間が経っている)
- **深く** (例えば、没入して考えている、納得して「わかった!」となっている)

学ぶことになり、『数学は(難しいけど)楽しい』、『数学は学ぶ意義がある』などと実感する。



(参考) 独立行政法人 教職員支援機構 実現したい子どもの姿 ピクトグラムの一部

- 興味や関心を高める
- 粘り強く取り組む
- 共に考えを創り上げる
- 協働して課題解決する
- 思考して問い続ける
- 自分の考えを形成する



# 課題解決に向けた具体的な実践例



数学科で探究を意識した授業とはどのようなものを東京学芸大学高校探究プロジェクトのツールキット（動画）を参考にし、意見交換した。

● 課題解決に向けて教科として話し合ったり確認したりしたこと

① 数学的活動とはどのようなものであるかという認識。

② **数学的活動を充実させることは、数学科における主体的・対話的で深い学びの実現につながるということ。** そのためには**課題学習**は必要不可欠であること。

リアルな文脈の中で、様々な知識やスキルを応用・総合しつつ何らかの実践を行うことを求める課題

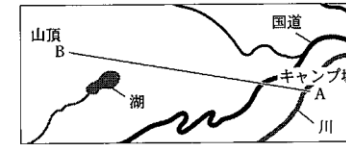
③ 課題学習として**パフォーマンス課題**を単元のどの部分に取り入れ、そこに至るまでにどのように生徒の力を育成するようにしていくべきかということ。

④ 大学入学共通テストでは生徒が探究している姿を会話文の形で問うており、**日々の授業における探究を大切にしてほしいという授業改善のメッセージが込められているため、授業デザインの参考**にしていくべきだということ。

(参考) 独立行政法人大学入試センター  
『令和4年度共通テスト本試験(1月15日・16日)、数学I・数学A』

- 学習指導要領では数学I、数学II、数学IIIの「2 内容」の最後に〔課題学習〕が規定されています。  
⇒課題学習が1年から3年まで系統立てて実施する。
- 学習指導要領解説には各内容にあわせて、課題学習の例が示されています。

(2) 以下の問題を解答するにあたっては、必要に応じて41ページの三角比の表を用いてもよい。  
太郎さんと花子さんは、キャンプ場のガイドブックにある地図を見ながら、後のように話している。



参考図

太郎：キャンプ場の地点Aから山頂Bを見上げる角度はどれくらいかな。  
花子：地図アプリを使って、地点Aと山頂Bを含む断面図を調べたら、図1のようになったよ。  
点Cは、山頂Bから地点Aを通る水平面に下ろした垂線とその水平面との交点のことだよ。  
太郎：図1の角度 $\theta$ は、AC、BCの長さを定規で測って、三角比の表を用いて調べたら $16^\circ$ だったよ。  
花子：本当に $16^\circ$ なの？ 図1の鉛直方向の縮尺と水平方向の縮尺は等しいのかな？

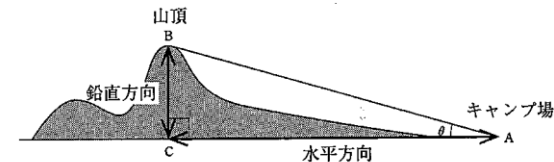


図 1

単元の指導と評価の計画

科目名：数学A

内容のまとめり：図形の性質

単元名：三角形の性質、円の性質

1 単元の目標

- (1) 三角形及び円に関する基本的な性質について理解する。【知識及び技能】
- (2) 図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを利用しようとしたり、粘り強く考え数学的根拠に基づき判断しようとしたりする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりする。【学びに向かう力、人間性等】

2 単元の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
三角形及び円に関する基本的な性質について理解している。 (例) ・角の二等分線の性質 ・三角形の5心の性質 ・チェバの定理 ・メネラウスの定理 ・・・・	図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。	事象を図形の性質を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを利用しようとしたり、粘り強く考え数学的根拠に基づき判断しようとしたりできている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

ポイント

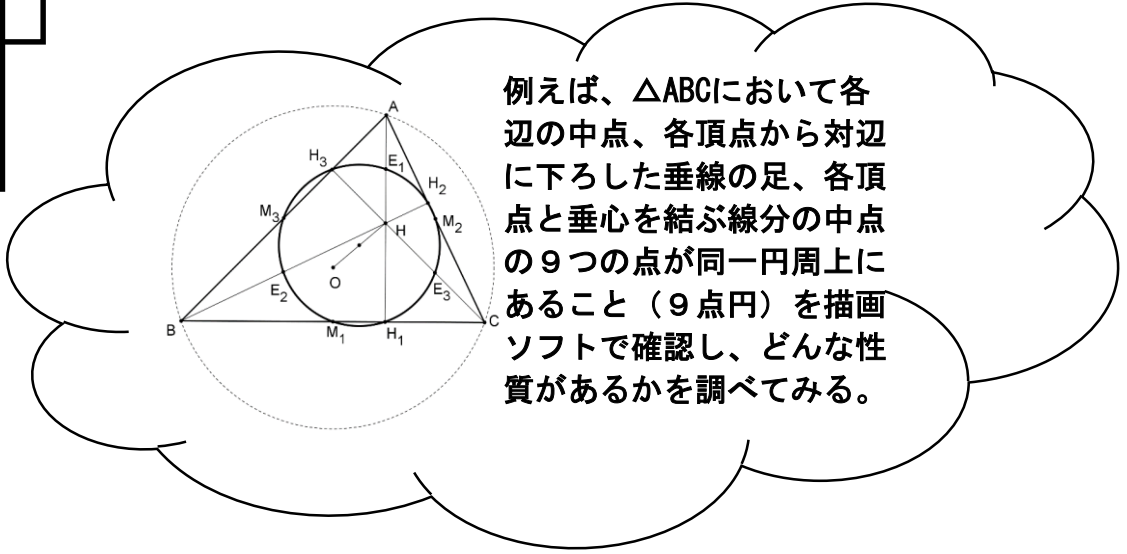
この実現のためには、三角形の性質について、面積比と線分比の関係を用いて**チェバの定理が成り立つことや、平行線の性質や三角形の相似などを用いてメネラウスの定理が成り立つことを見だし、論理的に考察したり説明したりさせる活動などを実施します。**

ポイント

評価・改善のために、まずは生徒が目標を自分で設定し、自分の理解度を自分で理解し、自分なりの学習方法を確立していく力を育てることとしています。  
 ⇒本来はこういった言葉を目標や評価規準に記載したい。

ポイント

この実現のために、図形のもついろいろな性質が、個々ばらばらなものではなく、互いに論理的に関連していることに気付かせたり、**コンピュータなどの情報機器を用いるなどして統合的・発展的に考察させたりする活動**などを実施します。



例えば、△ABCにおいて各辺の中点、各頂点から対辺に下ろした垂線の足、各頂点と垂心を結ぶ線分の midpoint の9つの点在同一円周上にあること(9点円)を描画ソフトで確認し、どんな性質があるかを調べてみる。

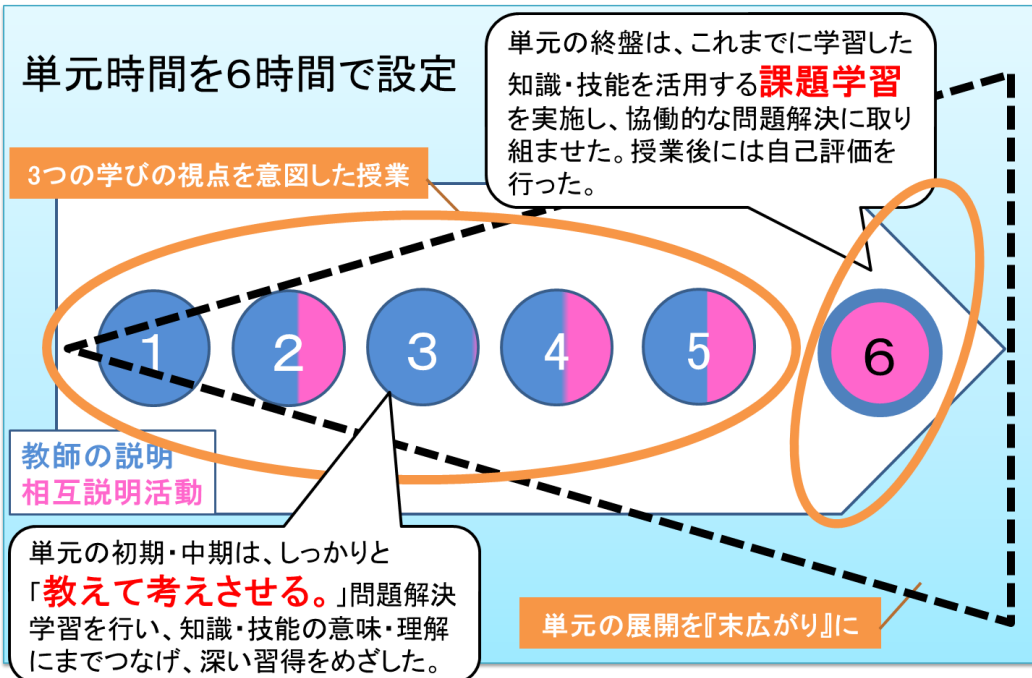
数学

時	学習内容・活動	重点	記録	主な評価規準（評価方法）
第1時	「線分における内分と外分について考えよう」。	知		<ul style="list-style-type: none"> <li>線分を内分・外分することができる。【知】（観察）</li> <li>数直線上の内分点・外分点を求められる。【知】（観察）</li> </ul>
第2時	「角の二等分線の性質を利用して線分の長さを求めよう」	知思		<ul style="list-style-type: none"> <li>内角の二等分線と外角の二等分線に関する定理を使い、辺の比を求められる。【知】（観察）</li> <li>定理の証明を班で協力して考察し、他者へ説明することができる。【思】（発表）</li> </ul>
第3時	「三角形における辺を内分・外分する2つの定理について考えよう」（メネラウスの定理・チェバの定理）	知		<ul style="list-style-type: none"> <li>定理を理解し、辺の長さや辺の比を求められる。【知】（観察）</li> </ul>
第4時～第6時（本時）	「三角形の五心についての性質を理解しよう」	知思主	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の五心の性質を理解している。【知】（観察）</li> <li>三角形の五心に関する証明をすることができる。【思】（観察）</li> <li>実際に五心を示すことができ、新たな性質を考察することができる。【思】（授業プリント）</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。【主】（授業プリント）</li> </ul>

**ポイント**

- 単元を通してできるだけ、問題解決の場を設定し、生徒が自ら問題に挑戦したいという気持ちを持てるような題材や発問をあらかじめ計画します。  
⇒ただし、こういった計画が分かるように「主な評価規準」の欄に記載すること（例えば発問やそれに対しての生徒の反応を記載すること）が必要
- ここでは三角形の性質のまとめとして第6時に課題学習を実施した。第6時に至るまでには形成的評価にして生徒の知識・技能を伸ばすことに専念しています。

数 学



※『知識・技能』と『思考・判断・表現』の観点における総括的評価は、定期考査においても行う。  
※振り返りシートの記述は、『主体的に学習に取り組む態度』の総括的評価の材料とする。

## 第6時の展開

### (1) 本時の目標

- 三角形の外心・重心・内心・垂心の意味や既にそれらの性質として学んだことが成り立っているかどうかを確認できる。さらに、外心・重心・垂心が同一直線上に存在することを理解し、そこから内分比を推測することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- 事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを利用しようとしたり、粘り強く考え数学的根拠に基づき判断しようとしたりできる。【学びに向かう力、人間性等】

### (2) 本時の評価規準

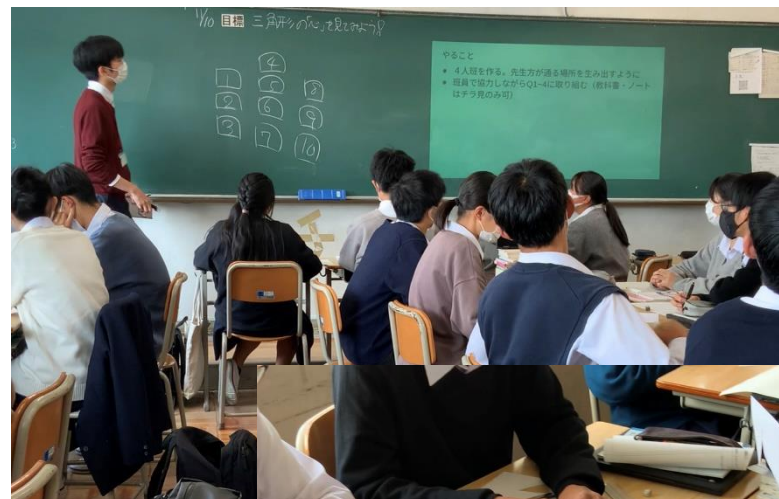
- **実際に紙で作った三角形を折って調べることを通して、作図の方法や今までに学んできた三角形の五心の性質を再確認**し、さらに外心・重心・垂心が同一直線上にあり、どのように内分されているかの予想を立てることができる。【思考・判断・表現】
- 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

### (3) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
5分 導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 4人班をつくる。</li> <li>• 作業の流れについての説明を聞く。</li> <li>• 三角形の五心を正確に説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ワークシートを配付する。</li> <li>• 生徒が行う作業の流れを説明する。</li> <li>• 数学的に正しい表現で説明できるように指示する。</li> <li>• 実測による値は多少の誤差が生じることについては許容する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 五心を数学的に説明できる。（観察・発問）</li> </ul> <p>【知】</p>
20分 展開	<p>《ワークシートに沿って進める》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 担当する三角形を決める。</li> <li>• 紙の三角形を切り出す。</li> <li>• <b>外心・重心・内心・垂心を示す折り方</b>を班で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• きれいに、大きく切り出すように助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 五心の位置を予想し、それらの性質に基づいてその位置を示すことができる。（観察・ワークシート）</li> </ul> <p>【思】</p>

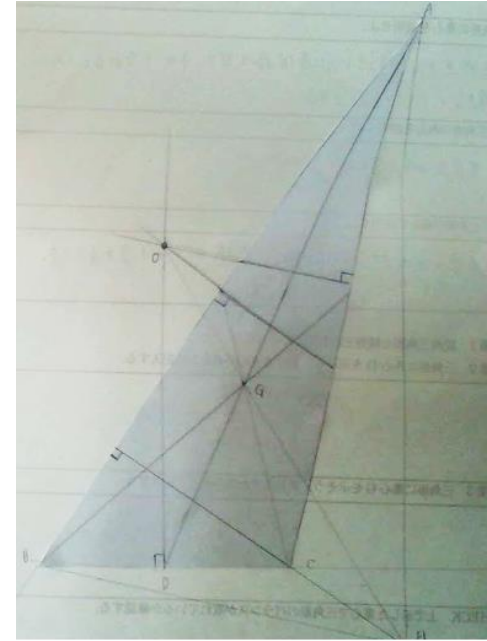
### ポイント

- **実際に教具（ここでは折り紙）に触って試して考えるなかで、生徒の興味・関心を引き出す体験型の数学的活動を実現。（ハンズオン・マス）**
- コンパスと定規を用いる作図よりも、折り紙による作図のほうが優れている点は、各辺の垂直二等分線や内角の二等分線等（折り目）が簡単に引けるところである。
- 例えば、内心を求めるためには三角形の3つの頂点の角を二等分するように折り目をつける。そしてその3つの折り目の交わる点が内心になる。



Q : 三角形に示した「心」のうち同一直線上に存在するのはどれか。また、同一直線上にある「心」の距離を計測しなさい。また、計測したものを班の人と共有し、それぞれの距離の比を求めよ。

★この問いでも生徒は考えていたが、全員が同じ2 : 1と答えることになった。同一直線上にあることや比の値も含めて五心にどんな性質があるのかを問うことでプロセスも評価することができたのではないか。



ポイント

- ①振り返りの視点として
  - どのようなことができるようになったか。
  - わからなかったことや課題として残ること
  - この探究を終えて次に考える「問い（問題）」は何か 等
- ②正三角形や直角三角形だったらどうなるのかをレポート課題として考えさせる。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 重心によって線分がどのように内分されるかを測って調べ、実測値を班で共有する。</li> <li>• 爪楊枝を用いて、重心でバランスが取れることを確認する。</li> <li>• 五心のうち同一直線上にあるものを調べ、班で共有する。</li> <li>• 同一直線上にある五心の距離の比を測って調べ、どのような性質があるか推測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Jamboardで実測値を共有させる。</li> <li>• 重心が中線を2 : 1に内分することを確認させる。</li> <li>• 重心が示せた班に爪楊枝を配付する。</li> <li>• Jamboardで実測値を共有させる。</li> <li>• 実測値の整理や発表する人を班で決めさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 同一直線上にある五心とその距離の比について予想が立てられる。（観察・授業プリント）</li> </ul> <p>【思】</p>
発表 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実測した数値や予想されることなど、班ごとにまとめたことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各班が発表する内容を指示する。</li> </ul>	
まとめ 5分	<p>《本時のまとめについて確認する》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 振り返りシートを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オイラー線について説明をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。（授業プリント）</li> </ul> <p>【主】</p>

## 実践の振り返りから考えられること

### ポイント

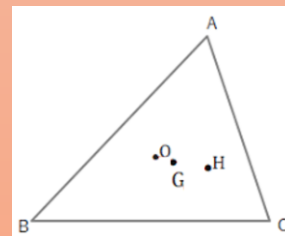
今回の実践を、生徒の主体性を引き出す課題により近づけるなら、以下の6点を意識すると真正性が高くなり、生徒に生きて働く学力を身に付けさせるとともに、学習の意義を感じさせることができる。

- 何がパフォーマンスの目的か？
- (学習者が担う) 役割は何か？
- 誰が相手か？
- 想定されている状況は？
- 生み出すべき作品は何か？
- 評価の観点(成功のスタンダードや規準)は？

- パフォーマンス課題の作成にあたり以下の観点が必要であることがわかった。
  - ①「単元」で最も育成したい資質・能力とはどのようなものかを明確にする。
  - ②①の資質・能力が身に付いたかどうかを確認するための評価規準を具体的に考える。
  - ③①の資質・能力が発揮されるパフォーマンス課題のシナリオを考える。⇒そのためにも単元のまとまりを見通して、指導と評価の計画を充実させる必要がある。

- 大学入試問題をはじめ、円の性質を含む単元のすべての知識を問えるようなパフォーマンス課題を作ることは難しかったが、パフォーマンス課題を入れる場所としては適切であった。
- 数学Aの「証明」や「作図」などは問いと答えの間に長さあたり、体験が伴うため、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」を評価することになじみやすい。
- 生徒の立場に立って授業を構想することがどれだけ大切であるかということ。生徒の学びがどうなるのかという視点で授業がつくられるようになってくるとより探究的な学びが実現できると考えられる。
- 探究的な学びは、今後の学習に生きる。そのため教員の視点で言えば他の内容に時間をかけずに済むし、生徒は獲得する知識や技能が増え、自立した学習者へと向かうと考えられる。

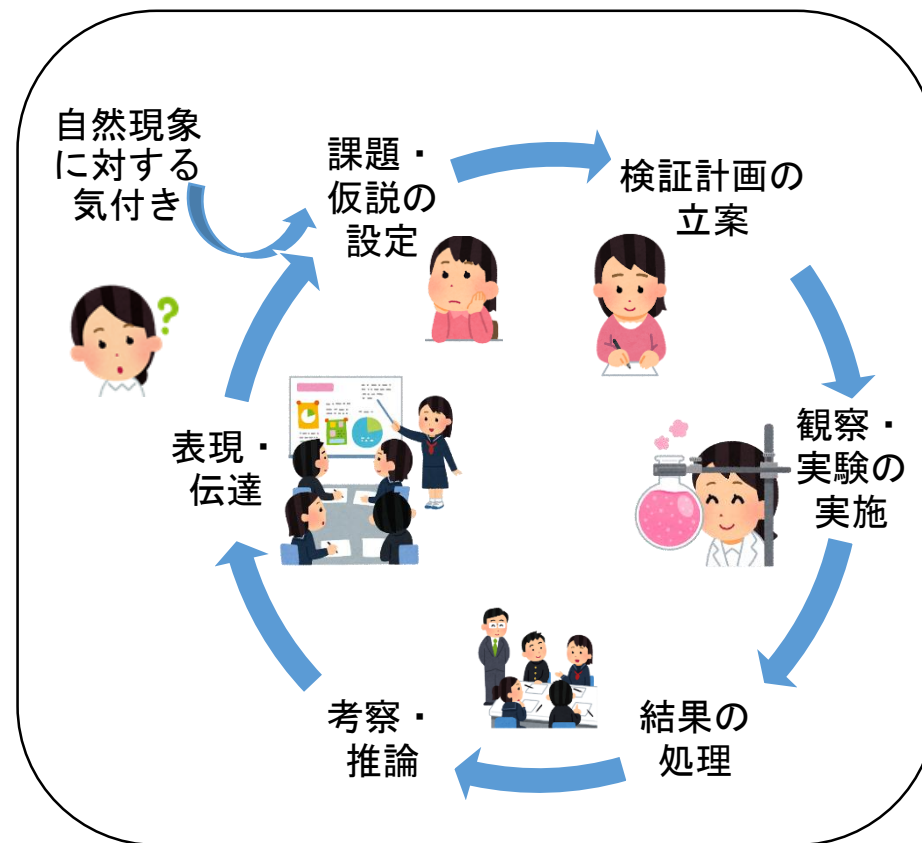
- ① 時は18世紀。数学者であるあなたは、友人から左図が記された手紙をもらいました。手紙には、「3三角形の心が見える」と添えてありました。点O、G、Hは三角形のどんな点でしょうか？学習した方法で作図をして説明しましょう。
- ② あなたは数学者として、単に点の性質を見つけるだけでは面白くないと考え、点O、G、Hの関係を考えて、返事をすることにしました。3つの点はどのような関係にあるのでしょうか？関係について、作図や測定などを使って、予想とそれに至る説明を記しましょう。数学的な証明を返事として添えるとさらに相手は喜ぶでしょう。



# 理科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- 理科内でも科目の専門によって授業づくりが分業されてしまっており、「理科として」どのような資質・能力を身に付けさせたいのか、という思いを校内で共有することが難しい。
- 生徒たちが時間をかけて「自由に研究に取り組むこと」が「探究活動」であると考えている。
- 知識を網羅的に教え込むことが重視され、授業時間にゆとりがないという理由で生徒が観察、実験を行う機会を確保することが難しい。
- 理科において育成をめざす資質・能力の中でも、「科学的に探究しようとする態度」とは具体的にどのようなもののかのイメージが持っていない。



## 上記課題を解決するために必要だと考えられることと期待される効果

- 各單元における「本質的な問い」とは何か、また、それをもとに單元全体をヤマ場に向かってどのように構成するか、そしてそれを解決したときに身に付いているはずの「探究するために必要な資質・能力」とはどのようなものか、などを教員どうしでよく議論すること。  
⇒ 指導法の良し悪しではなく本当に生徒に身に付けさせたいことは何かということの意思疎通ができる。
- 探究の過程を通じた生徒の成長の姿を、教員どうしが科目の専門を越えてよく共有し合うこと。  
⇒ 「問題が解けたかどうか」だけではなく、探究している姿から評価規準を設定することで、育成をめざす具体的な生徒の姿について、共通事項を見出すことができる。
- 知識を網羅的に教え込むことよりも、生徒たちが主体的に学びに向かうしかけを積極的に取り入れることを意識すること。  
⇒ 授業時間を効率的に使えるだけでなく、協働によって生徒の学習効果が高まり、また「学び方を学ぶ」ということにもつながる。
- 小学校からの理科としての学びと、身近な事物・現象に対する自身のとらえ方との関わりを、常に生徒が意識できるようにするために、「見取り」を活用する。  
⇒ 単元の冒頭で行う「見取り」は、小学校や中学校の内容についてどのような誤解をしているか、身近な事物・現象をどのようにとらえているか、などを把握したうえで、単元の終盤で、生徒たちが自らの学びや成長を振り返る材料として活用する。

探究の過程を通じた生徒の成長の姿を、科目の専門を越えて教員どうしが共有



生徒たちが主体的に学びに向かえるようにするしかけ

- ・ 答えが1つではない課題に班で取り組ませる
- ・ 短時間でも実施可能な観察、実験を工夫する
- ・ 探究の過程の一部でもよいので活動として取り入れる

身近な事物・現象をどのようにとらえているかを把握するための「見取り」

例：空中を飛んでいるボールにはたらく力を図示させてみると…

知らず知らずのうちに身に付いている誤概念の例  
「ボールが飛んでいくのは、ボールを押し  
ている力があるから・・・？」



「ボールが飛ぶ」現象を運動の3法則で説明できるようになった後に自らのとらえ方の変容を振り返らせる。



## 課題解決に向けた具体的な実践例

### ●課題解決に向けて、教科として話し合ったこと

- ①科学的に探究しようとする態度の具体について
- ②生徒たちが主体的に学びに向かうしかけについて
- ③単元を通して身に付けさせたい資質・能力を見取るための「単元を貫く本質的な問い」について

#### 単元「物質とその変化」の指導計画について 教員どうし話し合いの例

- A：物質量の単元で『本質的な課題』って何ですかね。本当に悩みに悩み続けているんです。
- B：やっぱり『ツブツブ感（粒子的概念）』をいかにとらえさせるかですよね。その理解が一番大事。
- C：中学校でも原子分子のモデルは学習しているはず。でもやっぱり『見えない』『数が多い』っていうのは認知的な壁だと思います。
- D：理論的な側面が先行しがちな分野なので、実験を取り入れる場面が難しいですよね。
- B：私は「お米」や「小豆」のような身近な素材や、なじみのある現象からどのように『ツブツブ感』が形成されていくかを重視したいです。
- A：それだけで量的関係まで理解できますかね、化学の学習として化学反応式の理解まではやっぱりいかないと。
- D：探究の過程でいうと、「自然現象からの気づき」や「仮説の設定」、「量的関係の分析」など、同じ単元でも教員によって強調したい場面が違うんですよね。
- C：生徒たちもそれぞれに合った学び方があるはずだから、「自らの学びをデザインする」ことまでできたら本当の探究なんですよ。

「見えない」「数が多い」という認知の壁をどのようにすれば克服させることができるだろう？



化学反応における物質とその量的関係を、物質の質量や気体の体積、含まれる粒子の数の観点で、生徒が説明できるように、単元をどのように構成すればよいだろう？

# ●化学基礎における実践事例

## 単元の指導と評価の計画

内容のまとめり：物質の変化とその利用

単元名：物質と変化

### 1 単元の目標

(1) 物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。

「mol」という新しい単位の取り扱い方を身につけ、原子の質量（小さい値）や物質の質量・体積（大きい値）等を比較できる。【知識及び技能】

(2) 化学反応式が化学反応における物質とその量的関係を表すことを見いだす。

「mol」を活用し、物質の質量やその気体の体積、含まれる粒子の数などを比較し、その量的な関係を表すことができる。【思考力、判断力、表現力等】

(3) 身近な物質の変化における量的・粒子的な関係について、科学的に探究しようとしている。【学びに向かう力、人間性等】

ポイント

この単元を通して「探究できる生徒になってほしい！」という思いを目標に込めます。

ポイント

同じ単元であっても教員によって、重視したい探究の過程は異なるので、育成したい資質・能力や、それを身に付けていく成長の過程をどのように見取るかについてあらかじめ議論したうえで、重点項目を決めることが重要です。

正確に実験操作を行うことができるようになってほしい。  
（「観察・実験の実施」の過程を重視）



反応物の量を変えると結果がどう変化するかを予測したりしながら、物質の概念を身に付けてほしい。  
（「仮説の設定」「考察・推論」の過程を重視）

グラフや表をもとに、理科学的な見方・考え方を働かせて、実験結果を分析・考察したり、表現したりすることができるようになってほしい。  
（「考察・推論」「表現・伝達」の過程を重視）



化学反応の量的関係の観点から合理的な実験計画を立てることができるようになってほしい。  
（「検証計画の立案」の過程を重視）

ポイント

「探究する生徒」の姿を具体的にイメージして作成します。

### 2 単元の評価規準



知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
日常的に取り扱っている単位の書き換えができています。 新しい単位であるmolと質量・体積・粒子の数との関係を理解し、比較・変換をすることができます。	化学反応式が化学反応における物質とその量的関係を表すことを見いだして表現している。	化学反応の量的関係に関する探究活動に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど科学的に探究しようとしている。

3 単元の指導と評価の計画 (全7時間)

時間	ねらい・学習内容	重点	記録	主な評価規準 (評価方法)
第1時 第2時	〔ねらい〕 問いへの探究活動と実習を通して物質の概念を理解する。 〔学習内容〕 グループ実習・実験 100粒ずつの大豆・小豆・米を使った思考課題に取り組む。	思主	○	【b】(実習レポート) 実際に測ることのできる粒子と、できない粒子の関係性について思考している。 【c】(振り返りシート) 化学反応と化学反応式について、中学校で学習した内容をもとに分からないことを調べたり、新たな疑問を立てたりしている。
第3時	〔ねらい〕 実習結果をもとに相対質量の本質的な理解へとつなぐ。 〔学習内容〕 用語の確認、相対質量と同位体との関係、分子量計算の練習を行う。	知		【a】(小テスト) 簡単な分子量計算から物質と他の単位との書き換えができています。
第4時 (本時)	〔ねらい〕 水素の発生実験を通じて、物質と体積の関係を学ぶ。 〔学習内容〕 金属と塩酸による水素の発生実験を行う。	思	○	【b】(実験レポート) 中学での学習を踏まえて、金属と酸との反応から発生した気体が何であるか推測することができる。
第5時	〔ねらい〕 模型を使いながら化学反応式の作り方を学ぶ。 〔学習内容〕 分子模型を使った化学反応式の考察を行う。	知		【a】(観察) 化学反応を式で表すことについて理解している。

導入時に、粒子的なとらえ方をゆさぶる問いを生徒に提示。解決に向けて、生徒が自らの学び方で探究活動を進めることができるようにします。

1年 化学基礎 実験 (原子量・分子量)

グループ討議  
課題

あなたは穀物屋の商人です。普段は業者相手に数10kgや何俵といった取引しか行っていませんでした。ある日、一般の町人が声をかけてきました。「どうしても家族のために栄養価の高い、豆腐とおはぎを作ってあげたい。お金はそんなにないので豆腐1斤とおはぎ1個分の大豆・小豆・米を売って欲しい。」心優しいあなたは売ってあげることにしましたが、商人として利益は無視できません。それぞれ何粒をいくらで売ればいいのか考えましょう。

〔統一条件〕  
普段の取引情報：大豆1kg(1000円)、小豆1kg(1000円)、米10kg(3000円)  
その他の情報：豆腐は1丁300g、おはぎのレシピ(小豆300g、米2合で20個分)

★注意★  
答えを出す必要はありません。どのように考えていけば、答えにたどり着けるかという解を導くロードマップをみんなで考えましょう。(書き方は自由ですが、相手に伝わりやすいように工夫する)

単元の冒頭で、中学校の学習内容(原子と分子、化学変化とは何か)を理解できているかを確認します。それを通して、化学変化に関する誤概念がないかを把握できるようにしています。

ポイント

第4時を単元の「ヤマ場」と位置づけ、第1時から第3時の学習内容を活用して探究活動に取り組むことができているかについて、探究活動への取組み、観察及び実験レポートの記述から見取ります。

ポイント

時間	ねらい・学習内容	重点	記録	主な評価規準 (評価方法)
第6時 第7時	<p>〔ねらい〕 化学反応の量的関係についての理解を深め、それらを活用して、チョークの主成分である炭酸カルシウムの含有率を導く方法を考える。</p> <p>〔学習内容〕 炭酸カルシウムと塩酸による二酸化炭素の発生実験を行う。</p>	思主	○	<p>【b】（実習レポート） 量的関係の観点から合理的な実験計画を立てることができている。</p> <p>【c】（振り返りシート） 学んだことを振り返り、量的関係を身近な現象に生かそうとしている。</p>

**ポイント**

粒子的な視点が単元を通してどのように変化したか、学習したことを日常生活に生かそうとしているかを確認します。

4 第4時の展開

- (1) 本時の目標  
水素の発生実験を通じて、物質量と体積の関係を見いだす。
- (2) 本時の評価規準  
中学での学習を踏まえて、金属と酸との反応から発生した気体が何であるか推測することができる。
- (3) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
5分 導入	<p>課題 「近い将来、水素の販売利益は年8兆円になると言われている。企業の研究員として効率良く、水素を生み出し、利益につなげるために必要な知識・技能とはどのようなものか？入社試験で問われていると想定して考えてみよう。」</p> <p>実験準備 実験の流れを理解する。 班によって異なる実験条件を確認する。</p>	<p>提示した課題の解決に向けた実験のねらいを、生徒が正しく把握できるようにする。</p> <p>班ごとに0.2mLごとに量の異なる連続4種類の塩酸の量で発生気体量を比較できるようにする。</p>	

**ポイント**

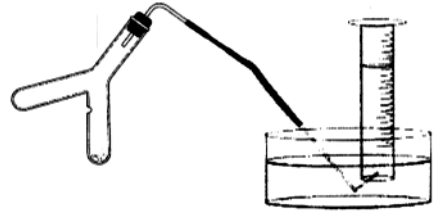
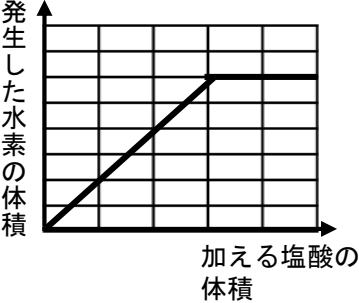
実験条件をどのように制御すればよいかを思考する場面を設けるなど、課題解決に向けて生徒が主体的に取り組むことができるように工夫しました。



時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
30分 展開	<p>実験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二股試験管に塩酸と亜鉛片をそれぞれ入れ、ゴム管付の栓をする。</li> <li>・水槽に水を張り、メスシリンダーを満水の状態で沈める</li> <li>・メスシリンダー内にゴム管を入れ込み、メスシリンダーを立てる。</li> <li>・二股試験管内で塩酸と亜鉛片を反応させ、発生気体を水上置換法で捕集する。</li> <li>・捕集が完了したら発生した気体の体積を記録する。</li> <li>・4種類の塩酸の量で発生気体量を比較し、グラフ化する。</li> </ul>		
10分 まとめ	<p>考察とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフから気付くこと、考えられることを班で話し合う。</li> <li>・導入で提示したミッション「効率よく水素を回収しよう」の課題解決のために必要な知識・技能とはどのようなものかについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録した実験結果をもとに、正確にグラフ化できるようにする。</li> </ul>	
5分 後片付け	<p>後片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験廃液の廃棄方法等に気をつけて後片付けをする。</li> </ul>		

**ポイント**

班によって塩酸の量を変え、クラスで1つのグラフを作成することを通して、より生徒が主体的に探究活動に取り組むことができました。

**ポイント**

完成したグラフをもとに、導入時に提示された課題の解決に向けて、考察を行います。

※「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点における総括的評価は、定期考査においても行う。  
 ※ 振り返りシートの記述は、「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価の材料とする。

### 5 学んでいる生徒の姿



「塩酸の量が増えたら発生する気体の量も増え続けていくと予想していたけれど、途中からそうじゃなくなっているような気がするよ。予想が違ったのかな？それとも操作に失敗があったのかな？」

「方法を変えて、塩酸を加える量をもっと小刻みにしてみようよ」



「グラフのふるまいを、中学校のときに習った分子のモデルで説明するとしたらどう表されるか、考え直してみよう」



「この後の授業では二酸化炭素の発生がテーマの実験もするって先生が言っていたけれど、気体になったときの水素と二酸化炭素の体積って、そもそも何によって決まるのかな…？」



ポイント

主体的に取り組んでいる生徒の姿や生徒の成果物をもとに、教員どうして、「探究する生徒の姿」とはどのようなものかを再度議論します。

ポイント

期待した成長や反応が見られたかどうかを把握し、よかったところは生徒に還元し、支援が必要な場合は次時や次の単元の指導に生かすようにすることが重要です。

## 生徒の成果物や実践の振り返りから考えられること

中学で扱った観察・実験や身近な素材・現象を探究の課題として取り上げ、単元の冒頭で行う「見取り」により、小学校や中学校の内容の理解度や、身近な事物・現象をどのようにとらえているか、などを把握できる。また、それによって単元の終盤で生徒たちが自らの学びや成長を振り返る材料として活用することができた。

同じ単元でも、教員によって探究の過程のうち「自然現象からの気づき」や「課題の設定」、「検証計画の立案」など、強調したい場面が異なる。それは、その単元における探究を通して、生徒にどのような資質・能力を身に付けさせたいかと深く関わるため、教員どうしてよく議論し、単元全体をデザインすることが重要である。

生徒が「もっと知りたい」「謎を解き明かしたい」と思える題材を取り上げたり探究の場面を設定したりすることで、生徒が主体的に自らの学びをデザインしていく姿が見られた。

探究をグループで行う以上、そのパフォーマンスの成果はグループ単位であられる。グループの中で、個人のパフォーマンスをどのように引き出すか、またそのパフォーマンスをどのように見取ることができるかについて、今後検討する必要がある。



# 保健体育科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

### 【科目体育】

- 目標を明確にし、単元終了時のゴールイメージを生徒と共有できていないことが多い。また、観点別学習状況の評価の3つの観点のうち、特に科目体育における「主体的に学習に取り組む態度」とはどのようなものかについての具体的なイメージが持てていない。

### 【科目保健】

- 教科書の内容を教え込まないといけないという固定観念があり、学習活動が、知識を伝達することに偏重している。

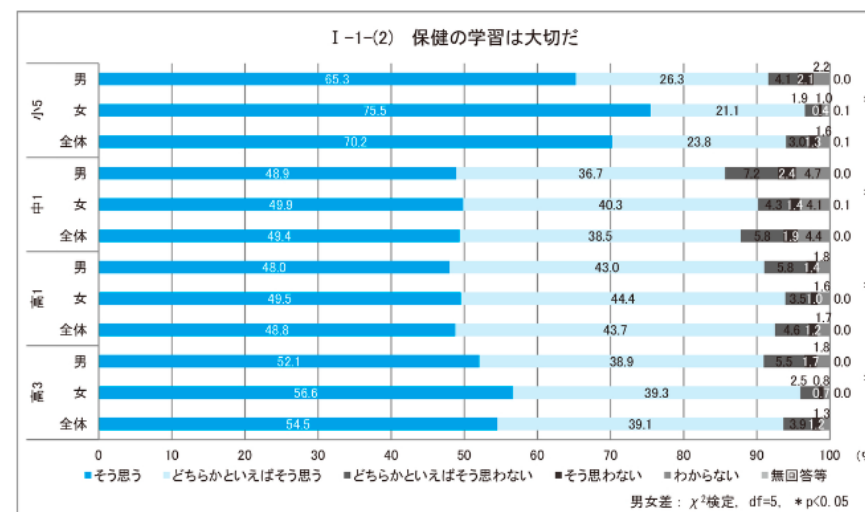
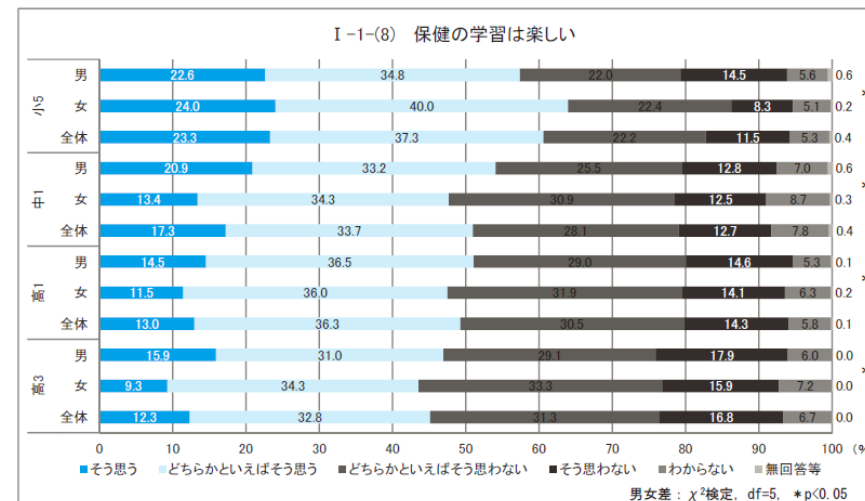
※右図では、「保健の学習は楽しい」高1 49.3% 高3 45.1%

「保健の学習は大切だ」高1 92.5% 高3 93.6%

保健の学習に関して、大切であるがあまり楽しくないと感じている生徒が多いという結果からも、学習活動の内容に課題があると考えられる。

### 【共通】

- 生徒の振り返りシートが、総括的評価を行うためだけの材料になっている。



保健  
体育

# 上記課題を解決するために必要だと考えられること

## 【科目体育】

- 教員が目標やゴールイメージを生徒と共有するようにし、その際、知識及び技能に偏ることなく、3つの資質・能力についてどのような姿になってほしいかを伝える。そのことにより目標やゴールイメージが明確になり、生徒は、何を、どのように取り組めばよいのか、がイメージできる。また、科目体育では、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容が、学習指導要領に示されているので、この指導内容に即した目標が達成できたかを見取ることが重要である。（右図1）

## 【科目保健】

- パフォーマンス課題、ワークシート等の工夫し、身につけた知識を活用したり、学習内容を自分事として捉えられたりする場面を設ける。そのことにより、これまで見られなかった生徒の変容を教員が把握することができる。

## 【共通】

- ワークシート等での振り返り内容の全体共有や課題の提示、振り返る際に評価規準を生徒と共有する。また、生徒が自己の変容に気付くことができるように、自己の取組みを振り返る場面を設定する。そのことにより、教員が単元を通じた指導に生かしたり、生徒が次の学びに繋がったりすることができる。（右図2）

各段階で示した「学びに向かう力、人間性等」の主な表記

指導事項	中学校1年・2年	中学校3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
ア 共通事項	積極的に取り組もうとする	自主的に取り組もうとする	主体的に取り組もうとする
イ 公正	勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとする	勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする	
	フェアなプレイを守ろうとする	フェアなプレイを大切にしようとする	
ウ 協力・責任	相手の尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする	相手の尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする	
	よい演技を認めようとする	よい演技を讃えようとする	
	仲間の学習を援助しようとする	互いに助け合い教え合おうとする	互いに助け合い高め合おうとする
エ 参画・共生	分担した役割を果たそうとする	自己の責任を果たそうとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする
	話合いに参加しようとする	話合いに貢献しようとする	合意形成に貢献しようとする
オ 健康・安全	一人一人の違いを認めようとする	一人一人の違いを大切にしようとする	
	健康・安全に気を配る	健康・安全を確保する	

平成30年告示学習指導要領解説保健体育編  
 体育編 P40 (図1)

IV. \_\_\_\_\_ → 真諦者も若者も障がい者もつ人もそうでない人も、地域社会のなかでともに暮らし、ともに生きていくことが普通（ノーマル）であり、そうした社会を実現していくために、社会を改善していくという意味

→この考えによって \_\_\_\_\_ や \_\_\_\_\_ が誕生

※バリアフリーの具体例：① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_

※ユニバーサルデザインの具体例：① \_\_\_\_\_ ② \_\_\_\_\_

③ \_\_\_\_\_

ノーマライゼーションの考えが自分の生活の中でどんなところにあるか考えて書いてみよう

保健体育



## 課題解決に向けた具体的な実践例

### ● 課題解決に向けて教科として取り組んだこと

#### (1) 保健体育科における「指導と評価の一体化」

目標やゴールイメージを生徒と共有すること、目標を達成するための学習活動を設定し、指導したことを評価していく必要がある。

令和3年度に取り組んだ、観点別学習状況の評価の試行では、「思考・判断・表現」の観点を見取るために、単元末に振り返りを行った(右図)。単元末のみの振り返りであったため、生徒の変容を明確にしていけることができなかった。

右図のような振り返りを単元の中頃に一度行うことで、取組みの工夫やアドバイスを生かした生徒の変容を見取ることに繋がり、また、教員は、生徒の振り返りシートの内容を授業に還元していくことができると考えられる。

(問)

授業で投げ技をするときに、あなたが気を付けたことは何ですか。自身が授業で工夫したことや仲間からのアドバイス、助言なども含めて自分の考えを具体的に答えてみましょう。(思・判・表)

(判断基準)

- ・ Bは自身の課題と解決法などについて書いている
- ・ AはBに加えて実際に交し合った友人とのアドバイスが入っている
- ・ 不十分はC

- ・ 単元末のみの振り返りでは、次の学習に生かすことが難しい。
- ・ 単元の中頃に行う方が有効。

## 【目標】

- ①柔道の基本動作や伝統的な考え方、技の名称や動きについて理解し、それぞれのポイントについて説明することができるようにする。(知識)  
相手の多様な動きに応じた基本動作から、相手を崩して投げたり、連絡技を用いて投げたりすることができるようにする。(技能)
- ②生涯にわたって運動を豊かに継続していくために、自己や仲間の活動を振り返ったり話し合ったりして課題を発見し、協力し合って課題に応じた取り組み方を工夫することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ③武道に自主的に取り組むとともに、**相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする**こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、自身の体力を高めようとする、健康・安全を確保することができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

## 【評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>(知) ①柔道の基本動作や伝統的な考え方について理解し、それぞれの動きのポイントについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>(技) ①相手の状態に合わせて投げることができる。</p> <p>②相手の投げ技に合わせて受け身をとることができる。</p>	<p>①自己や仲間の技術的な課題や自身の体力を高めるためにその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>②相手を尊重するなどの伝統的な行動をする場面で、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返っている。</p>	<p>①<b>相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。</b></p> <p>②健康、安全を確保している。</p> <p>③仲間と協力し合い、学ぼうとしている。</p> <p>④授業での活動や日々の記録を通して、自身が気づいたことや考えたことを、学習に活かそうとしている。</p>

## 【1学期の振り返りの内容】

柔道の礼法や柔道着の着方などについて、授業中にあなたが意識していたことは何ですか？これまでの授業を振り返ってどの場面でどのように意識していたか、具体的に答えてみましょう。

科目体育における「学びに向かう力、人間性等」の「公正」に関する事項を示している。

目標とともに評価規準を生徒と共有することで、生徒のゴールイメージを具体的にすることに繋げる。

単元を通じた振り返りを行うが、評価に関しては、振り返りシートの記述内容だけでなく、単元を通じて継続指導したことで見えてきた生徒の姿を観察で見取ることも必要である。

継続指導の工夫として、柔道衣の着方について模範となる動画をGoogleクラスルームに投稿し、生徒がいつでも確認することができるようにした。生徒の振り返りシートには、「帯の結び方について、何度も友だちに聞いたり動画を確認して覚えるようにした。」という記述も見られ、生徒の単元を通じて学習する姿が見て取れた。

## ポイント

目標を生徒と共有し、継続的に指導した上で、見取りを行っています。

(2) 科目保健における振り返り（シート）の活用

毎時間提出用

\* 自分が考えたことや取り組んだことをふりかえることができるような内容にしよう

日付	学んだこと・この時間に取り組んだこと 等	疑問点・要望 等
	<div data-bbox="333 311 1332 676" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><b>【活用の趣旨】</b> 生徒が、毎時間の学習内容を整理したり、疑問点を挙げたりすることで、学びを次に繋げたり、深めたりするために振り返りシートを活用した。</p> <p><b>【活用にあたっての留意事項】</b> 活用にあたっては、学習内容を生徒自身の実生活にどれだけ落とし込めるかを意識しながら継続指導した。</p> </div>	

ポイント

「主体性」引き出す授業づくりにおいて、振り返りシートを必ず活用することや生徒が毎時間提出を行い、教員が毎時間評価を行うことが求められているわけではない。

生徒が自らの変容を把握し、教員がその変容を見取るための1つの手段として、振り返りシートの活用があり、そして指導と評価の計画の中で、どの場面で振り返りを行い、評価していくことが適切なのかを、各学校の実態に応じて設定する必要がある。

つまり、授業における生徒の振り返りを総括的評価のためだけの材料にするのではなく、生徒が学習内容を整理することで次の学習に繋げ、また学習内容を自分事として捉えることができるような振り返りシートの工夫や学習場面の設定が大切である。

保 健 体 育

# 振り返りシートへの生徒の記述

6/1	母親が会社で熱中症になったことがあるので、 <u>症状とかは目に見たことあるし</u> 対応できなくはないけど、ちゃんと知れて良かったです。 good!	いざという時に 自分にいっぺんささるの! これを考えられるよう なるう!
6/8	ー、はんの人でも使えるようになって良かったなと思いました。 <u>AEDを使う</u> <u>勇気を持てるようにします。</u> ⊙	

実践では、生徒が学習内容を自分事として捉えることができるように継続して指導していたこともあり、学習内容を生徒自身の生活や生徒の実体験、さらには社会に対する課題などと結び付けることができているものが見られた。

6/1	熱射病になった事があるその時から水合、塩分補給を多くするようになってから熱中症を防げてよかった。再び減らす事は good!	good! 体験から予防の ことまで知り、実践 できる証だね!!
-----	---	---

5/26	<u>気化熱はよく知られたらいいから</u> <u>覚えておく</u> ⊙ <u>すぐ実践する!</u>	
------	---	--

生徒の学びや疑問に対して、教員がコメントを記載したり、次の授業で生徒全員に共有を行ったりすることで、生徒の学びを支援し、深めていくことに繋がった。

6/9	AEDの場所を覚えておくのは緊急の時に役立つと思っただけ <u>この社会に</u> <u>求められることだね!</u> good!	
-----	--	--

6/8	AEDの場所を覚えておくのは緊急の時に役立つと思っただけ <u>勇気を持って自分にできる行動を!</u> ←大賞がもらえる	good!
-----	--	-------

# 生徒の成果物や実践の振り返りから 考えられること

## □ 指導と評価の一体化

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を育成する過程で見取ることが考えられる。そのために、単元における指導と評価の計画を作成し、学習内容、指導内容に適した評価方法を選択するとともに、いつ、何を評価するのか、といった評価の場面を精選する必要がある。

## □ 単元末の振り返りシート

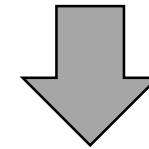
振り返りシートについては、科目保健だけでなく、科目体育においても活用されることが多い。科目体育における振り返りシートは単元末に活用されることが多く、また実施している複数の領域及び種目で、それぞれから異なった振り返りシートが配付されるため、生徒の負担、またそれを評価する教員の負担が大きくなるので、活用場面を精選する必要がある。

## 【目標】

武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、自身の体力を高めようとする、健康・安全を確保することができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

## 【評価規準】

相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。



技能を習得する場面で、相手に対する「礼」を重んじる姿勢を示している、柔道衣が乱れた際に、整えている、という姿は、「公正」に関する事項として評価することができる。

## ■ 今後の展望

### ①科目体育における共通の振り返りシートの作成

「学びに向かう力、人間性等」の指導内容について、取り扱う領域や種目で共通して指導する事項においては、共通する振り返りシートや振り返り項目を用いるなどの工夫をする。それにより、指導の一貫性や継続性を高めることに繋がると考える。そのための振り返りシートの項目を検討していく必要がある。

### ②科目保健におけるパフォーマンス課題の考案

生徒が学習内容を自分事として捉えていくための1つの方策として、単元の中でのパフォーマンス課題の実施が考えられるため、パフォーマンス課題の考案、実践を検討していく必要がある。

各領域で重点化して示されている指導内容（項目）

	①愛好的態度	②公正	③協力	④責任	⑤参画	⑥共生	⑦健康・安全
A 体づくり運動	○		○		○	○	○
B 器械運動	○		○			○	○
C 陸上運動	○	○		○		○	○
D 水泳	○	○		○		○	○
E 球技	○	○	○		○	○	○
F 武道	○	○		○		○	○
G ダンス	○		○		○	○	○
H 体育理論	○						

「主体的に学習に取り組む態度」の評価【学びに向かう力、人間性等の育成】

# 芸術科（音楽）における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- コロナ禍の状況の中、これまで一定の成果が表れていた取組みの多くに制限がかかったこと。
- 従来の評価の4観点と学習指導要領改訂に伴う3観点との対応関係を十分理解できていないこと。
- 実技テスト中心の「取組みの最終段階」での「技能」の評価を行うことに重点がおかれていること
- 生徒の学習状況を把握して適切な指導につなげること（「指導に生かす評価」）が十分ではないこと。

特に歌唱を伴う活動では、今まで「主体性」を引き出す授業の中心的存在であった「合唱」によるパート練習や歌唱練習などを制限せざるを得なかった。

従来から芸術科（音楽）では「観点別学習状況の評価」の取組みが充実していたにも関わらず、「何か新しいことを始めなければいけない」という考えにとらわれてしまった教員が多かった。

グループ単位で練習する際に、生徒が自身の課題に気がつかないまま時間だけが経過してしまうケースもあった。

## 上記課題を解決するために必要だと考えられること

- コロナ禍前に戻すのではなく、コロナ禍で培った歌唱指導の工夫や一人一台端末の活用などの効果的な指導については継続して実施すること  
⇒「歌う時間は短くても曲とは長く向き合う」ことができる。
- これまで実施してきた学習評価が、観点別学習状況の評価の観点【知識・技能】、【思考・判断・表現】、【主体的に学習に取り組む態度】のうち、どの観点到該当するのかを整理すること。  
⇒これまでの評価の実践を生かすことができる。
- 演奏の聴取から「できている」、「できていない」ということだけを評価する段階を超えた、題材の目標が実現されているかどうかを確認するための「見取り」の充実  
⇒3つの資質・能力のバランスよい育成につながる。
- 実技教科の特性上、生徒たちの主体的な活動がメインで授業が展開されていく中で、途中経過を適切に見取り指導することによって、この題材では「何ができるようになれば良いのか」が明確になり、生徒が「できた」「わかった」ということを経験することによって、自らの感性を働かせながら音楽を価値あるものとして実感できる。

歌の練習だけではなく、「きれいなハーモニーを使って何を伝えますか？」の「何を」の部分の考えるといった音楽表現において大切なものを見つめ直す機会をつくる。  
また、実技テストなどは一人一台端末を活用して「自分が一番納得のいく動画を提出する」という形式にすることによって、自分の実技を客観的に振り返ったり、「粘り強く取り組む」態度を育んだりすることにつながる。

「指導と評価の年間計画（シラバス）」や題材の評価計画等によって、評価方法や評価のポイント、評価の場面を可視化することが重要である。

一つの題材で必ずしも3観点を見取る必要はなく、年間を通してバランスよく育成することが重要である。

題材の目標は伝えていると思うが、大きな題材になるほど生徒たちの活動の時間が長くなる。その活動の中で「何ができるようになれば良いのか」を適切に見取り指導することによって、生徒全員に確実に資質・能力を身に付けさせることが重要である。



# 課題解決に向けた具体的な実践例

- 課題解決に向けて教科として話し合ったこと
- 従来から実践されている学習活動からどの部分を充実すべきか

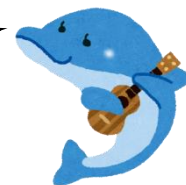
## 《夏の思い出》学習活動

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>①尾瀬や水芭蕉の写真を見て情景を把握する。</li> <li>②1番を階名で歌い、旋律の動きや曲の雰囲気把握する。</li> <li>③歌詞を読んで、1番を歌詞で歌って「好きな歌詞」を抜き出す。</li> <li>④「はるかなおぜ」を中心に部分練習を行い、旋律の動きに相応しい歌い方を考える。</li> <li>⑤2番を歌詞で歌う。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>①前時の振り返りを行う。</li> <li>②歌詞の音読を行う。</li> <li>③日本語の発音にふさわしい発声方法を練習する。</li> <li>④全員で合わせて歌う。</li> <li>⑤「振り返りシート」に学習の成果を記入する。</li> </ul>



生徒たちは、この曲を学習する目的や目標をわかっているかな？

意見を出し合ったり、協力して音楽を創り上げたり、歌唱表現の工夫を考える活動も取り入れることができるよね！



「技能」がないと「表現」できないし、資質・能力を一体的に身に付ける指導が必要だよ。

和声や強弱の変化に注目することによって、曲のイメージとして、例えば、何かの存在（やさしいかぜ）に気づき、『水芭蕉との出会い』をより印象深く表すなどの歌詞と音楽の構造との関わりを学習させることもできるね。



さらに考えるとすれば…



活動は充実していても、学ぶ側の生徒が「何かを学ぶために歌う」や「何かを表現するために演奏する」ということを理解して取り組めるようにすることが大事

## 課題解決に向けた具体的な実践例

- 課題解決に向けて教科として話し合ったこと
- 従来から実践されている学習活動からどの部分を充実すべきか

### 《夏の思い出》学習活動

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>①尾瀬や水芭蕉の写真を見て情景を把握する。</li> <li>②1番を階名で歌い、旋律の動きや曲の雰囲気把握する。</li> <li>③歌詞を読んで、1番を歌詞で歌って「好きな歌詞」を抜き出す。</li> <li>④「はるかなおぜ」を中心に部分練習を行い、旋律の動きに相応しい歌い方を考える。</li> <li>⑤2番を歌詞で歌う。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>①前時の振り返りを行う。</li> <li>②歌詞の音読を行う。</li> <li>③日本語の発音にふさわしい発声方法を練習する。</li> <li>④全員で合わせて歌う。</li> <li>⑤「振り返りシート」に学習の成果を記入する。</li> </ul>



この題材では「響きのある声で歌わせたい」のか、「音楽記号の意味に沿った表現の工夫をさせたい」のか、「音楽記号と歌詞の意味との関わりについて考えさせたい」のかがはっきりしません。  
また、「観点別学習状況の評価」について考えたときに、それぞれ3つの観点をどのタイミングでどのように評価するのか、何を見取るのかがはっきりとしていません。

「これまで聴き取れなかった音が聴きとれた」、「これまでできなかったことができるようになった」、「これまでわからなかったことがよくわかった」、「“楽しい”と感ずることができた」  
⇒「できた！」や満足感を実感することのできる授業に

#### 【そのためには】

- 演奏中心の授業から、もう少し音楽と向き合う時間を取ったり、楽曲について考えることのできる内容を取り入れていく。
- 【知識・技能】で一括りの評価をしていたが、改めて【知識】について「何を理解するのか」を明確にして指導する。
- 実技テストのみで評価するのではなく、普段の取組み状況や態度なども考慮していきたい。
- 普段はよく出来ているが、テストになるとなかなか実力が発揮できない生徒へのてだてを考えていく。



## ●府立高校での実践事例

題材：ベートーヴェンの交響曲第9番《An die Freude》を探究しよう

### ・題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解し、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付ける。
- (2) 音色、リズム、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考えて聴く。
- (3) 混声合唱の響きを味わいながら歌うことや、曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされていることを理解しながら、歌唱表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽を愛好する心情を養う。

#### ポイント

音楽について、歴史的・文化的背景や曲想と音楽の構造と関わりながら総合的に理解されることによって、音楽のよさや美しさを深く感受できることをねらいとしています。

### ・題材の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
<p>【知①】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 (歌唱)</p> <p>【技】表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。 (歌唱)</p> <p>【知②】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 (鑑賞)</p>	<p>【思①】音色、リズム、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。(歌唱・鑑賞)</p> <p>【思②】どのように歌うかについて表現意図をもっている。(歌唱)</p> <p>【思③】自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考え、音楽のよさや美しさ自ら味わって聴いている。 (鑑賞)</p>	<p>オーケストラの響きや混声合唱の響きを意識しながら歌うことや、曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされていることを理解しながら、歌唱表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

#### ポイント

曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要となる技能を身に付け、楽曲にふさわしい表現を工夫して合唱することを見取ります。

・題材の指導と評価の計画

次	時	学習内容	主な評価規準 (評価方法)
1	1	<p>◆クラシック音楽に親しむ</p> <p>○楽曲について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交響曲第9番第4楽章を鑑賞する。</li> <li>・楽曲の背景、歌詞の大意、音楽の構造について理解する。</li> </ul>	<p>【a】（ワークシート）</p> <p>「交響曲第9番第4楽章」について曲想と音の構造との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。</p>
2	2 3 4	<p>◆作曲家の表現意図を踏まえて、音楽を形づくっている要素の働きを知覚し、表現を工夫する。</p> <p>○《An die Freude》のパート練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートごとにClassroomに配信している合唱練習用音源を使用して譜読みをする。</li> <li>・ドイツ語の発音、歌詞の意味を理解する。</li> <li>・ドイツ語の発音（子音、ウムラウト等）、合唱表現にふさわしい発声法に注意しながら歌唱する。</li> </ul>	<p>【c】（観察・ワークシート）</p> <p>曲想が歌詞の内容や作曲者の思いなどによってもたらされていることを理解しながら、歌唱表現を創意工夫することに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>
3	5 6 7	<p>○《An die Freude》のパート練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素を知覚・感受して、楽譜で確認しながら練習をする。</li> <li>・個人でChromebookを用いて録音を行い、自分が一番良い演奏と思うものを提出する。</li> </ul>	<p>【a】（録音の確認）</p> <p>表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付けている。</p> <p>【b・c】（観察・ワークシート）</p> <p>自分の演奏の課題点を解決するために具体的な工夫を行い改善しようとしている。</p>
4	8 9	<p>◆意見を出し合いながら、音楽表現を創意工夫する。</p> <p>○全体練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な音程とハーモニー、音色、発音を意識して音楽表現を深める。</li> <li>・楽曲全体の曲の構成を考え、どのように演奏するのかを試行錯誤する。</li> </ul>	<p>【a・b】（観察・ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素とその働きについて知覚・感受したことについて書けている。</li> <li>・他のパートとの調和を意識したりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫している。</li> </ul>
5	10 11	<p>◆意見を出し合いながら表現の工夫をし、楽曲を完成させる。</p> <p>○実技試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでChromebookを用いて録音動画の撮影を行い、Classroomの課題機能を使って提出する。</li> <li>・録音、録画したものを全パートでつなぎ合わせた動画を鑑賞し、自分たちの演奏を客観的に聴く。</li> </ul>	<p>【a・b】（演奏の聴取）</p> <p>適切な発声、発音、音程、強弱等を意識しながら、自己のイメージを歌唱で表現している。</p> <p>【c】（ワークシート）</p> <p>混声合唱の響きを意識しながら歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

ポイント

- ・歌詞や旋律がもつ意味や作曲者が曲に込めた思いなどをしっかりと理解する。
- ・それに相応しい表現方法を探究する。
- ・自分の演奏を客観的に聴くことによって自分の課題を見つける。
- ・他者と意見交換することによって更に表現の幅が広がることを意識して計画しました。



芸術  
音楽

●第7時（本時）の展開

(1) 本時の目標

自分の演奏を録画録音することで何度も客観的に聴き、課題点を確認し改善するため練習を進めることができる。

(2) 本時の評価規準

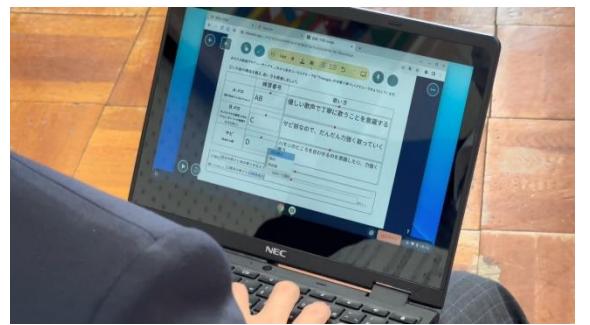
自分の演奏の課題点を解決するために具体的な工夫を行い改善しようとしている。

(3) 本時の学習過程



生徒の主体性を引き出すためのアイデア

本題材で学習したことを授業内の発表だけでなく、TV番組の第九の動画投稿企画に参加することで、生徒の意欲を引き出し、オーケストラによる音楽の完成形を体感することができ、学びを深めることができる。



芸術  
音楽

ポイント

一人一台端末は、アプリを活用した創作だけでなく、録音を活用した個人の実技テストや「思考・判断・表現」を見取るためのグループでのワークシートの共同編集なども行うことができる。また、Chromebookでの録画録音は、グループで歌っても自分の声にフォーカスされて録音されるので、評価の際も一人ずつの声を確認することができる。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価方法 ○形成的評価、●総括的評価
導入 5分	①本日の学習内容の確認 ・ドイツ語の発音に注意し、音程、リズム、発声、強弱に着目して歌う。 ・自分の演奏を客観的に聴いてみる。	・本時の流れ、目標、録画録音の流れを理解させる。	
展開① 15分	②発声練習、発音練習 ・前時までの発音のポイント等を確認しながら練習する。 ③パート練習 ・音程、リズム、発声、強弱に着目して練習する。	・生徒が歌詞や発音と向き合い、より深い学びを促すために歌詞の音読を課題として設定する。 ・旋律の動きを把握し、曲想にふさわしい表現を工夫しながら、表現豊かに歌う技の習得を図る。	○観察【知・技、主】
展開② 25分	④Chromebookを用いて録音を行い、自分が一番良い演奏と思うものを提出する。 ・まずは録音してみて、自分の演奏を客観的に聴く。 ・自分の演奏の課題点は何なのかを確認する。 ・どのように改善すれば良いかをワークシートにまとめる。	・各パート2人ずつの班に分かれ、班で《An die Freude》を歌い録画録音を行う。 ・録音動画で客観的に自らの演奏を聴くことで、ドイツ語の発音や音程、リズム等を確認しながら、より良い演奏になるように試行錯誤を繰り返すように促す。 ・何度も取り直しが可能だと伝える。	○観察【知・技、主】
まとめ 5分	⑤試行錯誤した内容についてまとめる。	・録音を客観的に聴いて課題を把握し、その課題解決のための工夫を考えると、より良い演奏につながることを理解させる。	●録画録音動画、ワークシート【思、主】 自分の演奏の課題点を解決するために具体的な工夫を行い改善しようとしている。

# 実践の振り返りから考えられること

- ・グループワークとして、音楽表現が難しい箇所において、どのようにすれば解決するかをお互いに話し合う機会をもった。話し合うことでより具体的な方法が編み出されるなど、自らの考えや意見が音楽に還元される仕組みを作ることによって、より主体的に取り組むことにつながった。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、この観点だけ切り取って評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点を踏まえて評価していくべき。
- ・実技テストや発表だけで評価するのではなく、そこまでの過程で考えたり表現を試みた内容も可能な限り評価していく必要がある。
- ・振り返りでの記述に「難しかった」「最初は無理だと思ったが練習を重ねるうちにできるようになった」「達成感があった」などの内容が多くあったので、概ね課題設定や目標設定は間違っていなかった。
- ・テスト本番に失敗しても、その場での声かけがさらに自己評価や向上心につながっていることも生徒の記述から読み取れたため、丁寧な声かけが主体的な学びにつながる。

## 生徒の主体性を引き出すためのアイデア

器楽（ギター）の題材では大きく前後半に分けた。前半は、ギターの扱い方や奏法等を学び、個人の技術を高める。後半は、学習したギターを使用したアンサンブルに挑戦する。前半では、右のチェック表を用いて自分がどこまでの課題を終えたのかを分かるように個人チェックを行った。初めてギターに触る生徒にはちょうどいい課題だが、経験者にとっては簡単な内容なので、自由課題も設定し、高度な曲にもチャレンジさせた。

ギター課題チェック表	
年 組 番 名 前	
<small>・合格したら次の課題に進む。 ・最後に提出するので、なくさないように。 ・課題1～5は、全員。 ・自由課題は、希望者のみ。1人で弾き歌い、もしくは、ヴォーカルとギターに分かれて2人で。 ・曲名とVヴォーカル・Gギターどちらかに○をして持ってくる。</small>	
課題1： ドレミファソの曲 の中から1曲	自由課題① 曲名： V・G
課題2： コードC/G/G7	自由課題② 曲名： V・G
課題3： かっこよく弾き歌い	自由課題③ 曲名： V・G
課題4： ちょうちょう 弾き歌い	自由課題④ 曲名： V・G
課題5： 大きな古時計 弾き歌い	自由課題⑤ 曲名： V・G
自由課題曲名 I Love You・乾杯・情熱の薔薇・桜坂・TRAIN TRAIN・栄光の瞬間・キセキ 粉雪・夢の中へなど。	
最終課題はグループで合奏	



## (参考) ある府立高校での2学期の配点

題材	評価方法	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歌唱	実技テスト	20		20
	実技テスト	20	15	30
	ワークシート		15	
器楽	技能テスト	10		
	発表	30	30	50
創作	作品提出	20	20	
	ワークシート		20	
合計		100	100	100
講座平均		64.7	62.4	60.8

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法から生徒のどのような点（姿）を評価したか  
→発表に向けてグループで意見交換ができていたか、また、アイデアを受け入れグループの演奏に活かそうとしているかを評価した。
- 2学期の題材の「主体的・対話的で深い学び」を実現するアイデア  
→ギターアンサンブルにおいて、ICTを活用し、それぞれ表現の工夫について意見を出し合い、一つの音楽へとまとめる学習を行った。  
→合唱において、各パート1人ずつの計3人でハーモニーを奏でる練習を行った。Chromebookで録音を行い、録音したものをグループで聴き検証を行い、どうすれば美しいハーモニーになるか考える学習を行った。

# 芸術科(美術)における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- 完成した作品を評価することが多く、完成までの過程で表出する資質・能力を評価することが難しい。評価の観点では「創造的な技能」の評価に偏りがちであり、生徒も作品の出来ばえにばかりを注目しがちである。
- 作品を完成させることだけを目標にするのではなく、生徒が主体的に課題を発見し、問題解決を図ることができるようにするためには、指導者がアイデアスケッチや構想を練る段階に形成的評価を行いながら、授業改善をすすめる必要がある。
- 【観点別評価について】これまで生徒の成果物を見取るパフォーマンス評価を中心に行ってきた美術、工芸科では、4観点から3観点に変わったことのみによる課題はない。ただし、それぞれの観点をバランスよく見取れているか、見取る評価材料が真に見取るべき内容を表出しているか、改めて検証が必要である。



### ポイント

観点	評価の考え方	美術、工芸科として何を評価するか
知識 技能	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価をする。 既習の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●造形的な見方を豊かにする知識</li> <li>●創造的に表す技能</li> </ul>
思考 ・ 判断 ・ 表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発想や構想に関する資質・能力</li> <li>●鑑賞に関する資質・能力</li> </ul>
主体的 に学習 に取り組む 態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自らの学習状況を把握し、自己調整しながら、粘り強く取り組もうとする態度。</li> </ul>

それぞれの観点をバランスよく見取る

## 上記課題を解決するために必要だと考えられること

- 題材に入る前に評価の計画を考え、形成的評価と総括的評価を指導の計画に位置付け、明確にしておくこと。  
→完成作品のみに注目するのではなく、生徒がどのように主体的に取り組み、何について考えたか、思考にどのような量・質の変化がおり、作品にどのように生かされたか、制作の過程であられる資質・能力を指導者がしっかり見取れる。
- 完成作品の出来ばえだけでなく、思考の過程を見取るための判断基準であるルーブリック表（評価ABC）を事前に作成し、生徒とも共有すること。  
→その題材で何について考え、何ができるようになったらよいのかを指導者と生徒が明確に理解でき、作品の出来ばえばかりにとらわれることなく、主体的に取り組める。
- 目標を達成するために効果的に働くワークシートを作成すること。特に何について考えたらよいのか分かるように問いを工夫すること。  
→制作における技能面ばかりでなく、問題解決にむけての思考の過程も大切にできる。

## 美術室

形成的評価はタイミングが大事。その後の制作に影響することがないようなら、意味がないなあ。

作品を完成させることだけが目的ではない。何を考えたか。その課題の解決のために、どうしたか、問題解決の過程も大事。

形成的評価と総括的評価が曖昧なままだと、評価するものが多すぎて、評価疲れをおこしそう。

美術教育は「美術の教育」ではなく、「美術を通じた教育」であることを再認識しよう。





# 課題解決に向けた具体的な実践例

ポイント

作品の仕上がりに大きく影響するアイデアスケッチをここで見取り、目標に達していない評価Cの生徒に**本制作に入る前に積極的にアドバイス**する。



ポイント

目標の実現状況を見取れる材料は何か、形成的評価と総括的評価を明確に位置づけて、記録に残す評価を精選している。そのため、3、4時では、記録に残す評価はせず、形成的に評価し、指導することに集中している。

ポイント

プレゼンシートで制作を振り返り、何を考え、どのように解決したのか、自分の思考の変化と制作の過程についてしっかり振り返る機会を設ける。

ポイント

相互鑑賞によって、他者の見方・考え方から新しい気づきにつなげる。

芸術

●府立高校 1年生の実践事例

## ◎題材における指導と評価の計画 (全8時間)

●…形成的評価、○…総括的評価

時	主な学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	主	
1・2	1、構想 ・題材を理解し、自分と向き合い、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、アイデアを多角的に数多く出し、創造的に構想を練る ・様々な取扱説明書を調べて参考にする。 ・現代での視覚的・直観的な情報伝達の重要性を理解する。 2、ブラッシュアップ ・教師の助言を受け、構想を練り直し、思考を深める。	○1	○1	○1	[知①] (アイデアスケッチ) ・課題を正しく理解して、表現している。 [主①] (アイデアスケッチ・観察) ・アイデアを多角的に数多く出し、創造的な工夫や推敲を重ね主体的に取り組もうとしている。 [思①] (アイデアスケッチ・観察) ・課題に適した表現の工夫 (情報を視覚化する・ユニバーサルデザイン・隠喩的表現など) をおこなっている。  [主②] (アイデアスケッチ・観察) ・教師の助言を生かし、課題の理解を深め、アイデアをブラッシュアップして質を高めようとしている。
3	作品の下描き・着 <b>省略</b>	●2	●2	●3	[主③] (観察) ・計画的に制作を進めようとしている。
7・8	5、作品完成 6、ワークシート (プレゼン) 記入 ・ワークシートで自分の活動を客観的に振り返り、プレゼンシートでは自分の作品を言語化して表現する。 7、相互鑑賞シート	○5 ○6	○3 ○4	○5	[知⑤] (作品) ・内容にあったレタリングを使って、効果的に工夫して表現している。 [知⑥] [思③] (作品) ・形や色彩、構成など、造形の要素の働きを理解して作品を制作している。・形や色彩、構成など、主題を表すために創造的に構想を練っている。 [思④] (作品) ・情報を視覚化している。 [主⑤] (作品・観察) ・作品を完成させるため粘り強く主体的に取り組もうとしている。 [主⑥・思⑤] (ワークシート) ・振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現している。 [思⑥] (ワークシート) ・作品の内容や良さを感じ、意図や表現の工夫などを考えている。

# 見取りたい内容が表出するような問いの工夫

## ワークシートの工夫例 1

「わたしのトリセツ」相互鑑賞レポート 1年( )組( )番名前( )

1. 周りの人の作品を2人以上鑑賞してください。お互い作品を交換して、お互いに記入してください。
2. ①～④について記入してください。
3. 2で記入した内容を作者に見てもらい、感想を書いてください。



ポイント

他者の見方・考え方も参考にして新しい視点で自分の作品を捉えなおす機会を設ける。

私の感想 1人目: 1年( )組( )番( )さんのトリセツ 鑑賞レポート

- ① 良かった点
- ② 自分の作品に取り入れたい点
- ③ 改善点、こうすればより良くなる点
- ④ 感想

↓  
作者の感想 作者( )さん: 私の感想を読んだ作者の感想

(振り返りシートより抜粋)

質問3: 相互鑑賞した後、自分の作品を改めて見て、もっと良くするにはどうしたらいいと思いますか。

ポイント

右の「学びに向かう力、人間性等」に関する目標の達成度合いを測るために、有効な問いを設定する。

## 「わたしのトリセツ」評価の具体例

【学びに向かう力、人間性等に関する題材の目標】

- ① 相互鑑賞レポートで、主体的に他者の作品の内容や良さを感じ取り、作者の意図や表現の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組むこと。
- ② 振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現すること。

「主体的に学習に取り組む態度」のひとつの評価規準  
振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現しようとしている。

判断基準

↓ 目標の達成度合いをどうはかるか (ものさし)

A	B	C
振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現しようとしている。 <u>さらに、他者の作品から良さを見取り、自分へフィードバックするよう</u> に取り組んでいる。	振り返りシートで自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現している。	Bを満たしていない。

芸術  
美術

## ワークシートの工夫例2

「わたしのトリセツ」振り返りシート 1年( )組( )番 名前( )

I、【 振り返りシート 】 ★印はa～dで答える (a)上出来 (b)まあまあ (c)もう少し (d)まったく

### 1、課題理解・取り組み (知・技/思・判・表/主)

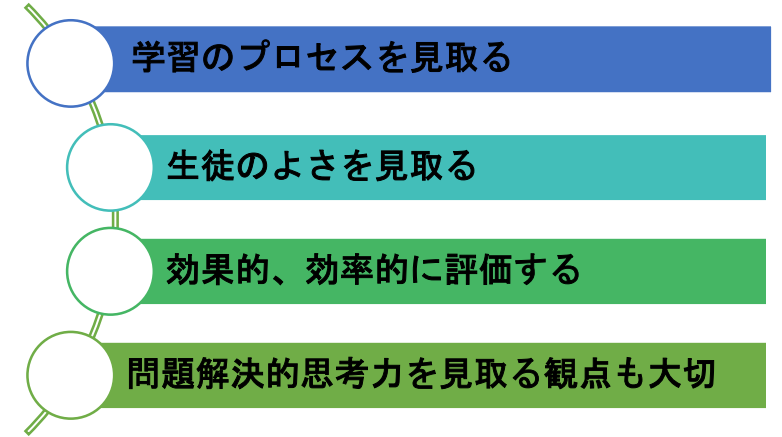
- ★① 課題を理解できましたか? [ ]
- ★② 自己紹介ではなく、取り扱い説明書として制作できましたか? [ ]
- ★③ 情報を視覚化して表現できましたか? [ ]
- ★④ 文字情報に頼らない、ユニバーサルデザインを意識した表現ができましたか? [ ]
- ★⑤ 比喻表現や隠喩表現を使って表現できましたか? [ ]
- ★⑥ レタリングを内容に合わせて効果的に表現できましたか? [ ]
- ★⑦ 前半で学習した色の特性を上手く使い、内容に合った効果的な表現ができましたか? [ ]
- ★⑧ 自主的に取扱説明書を調べたり、資料を集めるなど準備ができましたか? [ ]
- ★⑨ よい作品ができましたか? [ ]



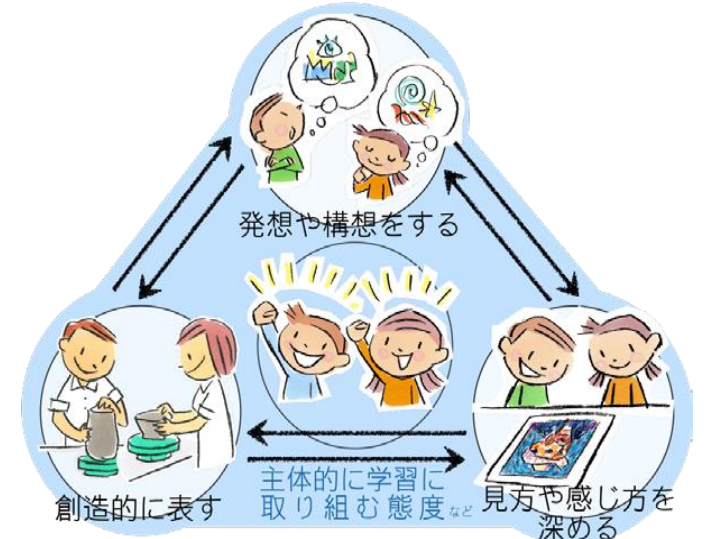
ポイント

何について考えたらいいいのか、何ができるようになったらいいのか、意識できるような問いを設定する。

## 美術、工芸科における評価の基本的な考え方



### A表現とB鑑賞を相互に関連付けて主体的で深い学びへ導く



芸術

## 「主体的に学習に取り組む態度」を評価するための工夫

### ワークシートの工夫例3

「版で表す」凹版(シルクスクリーン)ふりかえり

この課題では「凹版 シルクスクリーン(カッティング技法)」で「ミニカード」を制作しました。  
テーマは「My Favorite」です。  
あなたの今回の作品制作について振り返ってください。

- ① 作品制作に興味を持って(または頑張っ、または前向きに)取り組みましたか？  
興味を持った(または頑張った、または前向きに取り組めた)のはどの部分ですか？  
又、興味を持てなかった(または頑張れなかった)部分があれば、どの部分ですか？  
その理由も教えてください。
- ② 難しかったところがありましたか？ どの部分ですか？ どう工夫して解決しましたか？
- ③ あなたがこの課題を通して学んだことや身についたと思うことはどのようなことですか？

ポイント

指導者が、授業観察で見取れていなかったことを  
本人の記述により表出させる問いを設定する。



その題材で、自らの学習状況を把握し、自己調整しながら、粘り強く取り組もうとする姿とは？

造形に関する基礎基本を主体的に身に付けようとし、目標に向けて努力する姿とは？

授業観察？

ワークシートの記述？

作品の出来ばえ？

説明などポイントをメモしている、等

積極的に質問・発言しているか？



多様な評価方法から目標に応じて最適を選択！

鑑賞レポート？

試行錯誤を繰り返している？

芸術

## 振り返りでの気づきが活かされた例

### ワークシートの工夫例 4



デッサンの学習を終えて

ワークシートの問い：  
次に制作するとき、今回学んだことをどのように活かしますか。

ワークシート記述：  
実物よりも大きく描くことを意識するのと、明るいところと暗いところの差をはっきり描くようにしようと思います。立体感があまり表現できなかったので、線の向き、色の変化、濃さに気をつけます。



## 自身の振り返りが以降の題材で活かされた例

デッサンでの学びを生かして、明暗や線の向き、濃さを意識した作品を主体的に制作することができた。



振り返りを効果的なものにするためにも、自身の作品と向き合う時間をしっかり確保することが重要。

相互鑑賞で他者の意見から気づきがあったり、他者の作品を鑑賞して発見することも重要。



芸術  
美術

## 生徒の成果物や実践の振り返りから 考えられること

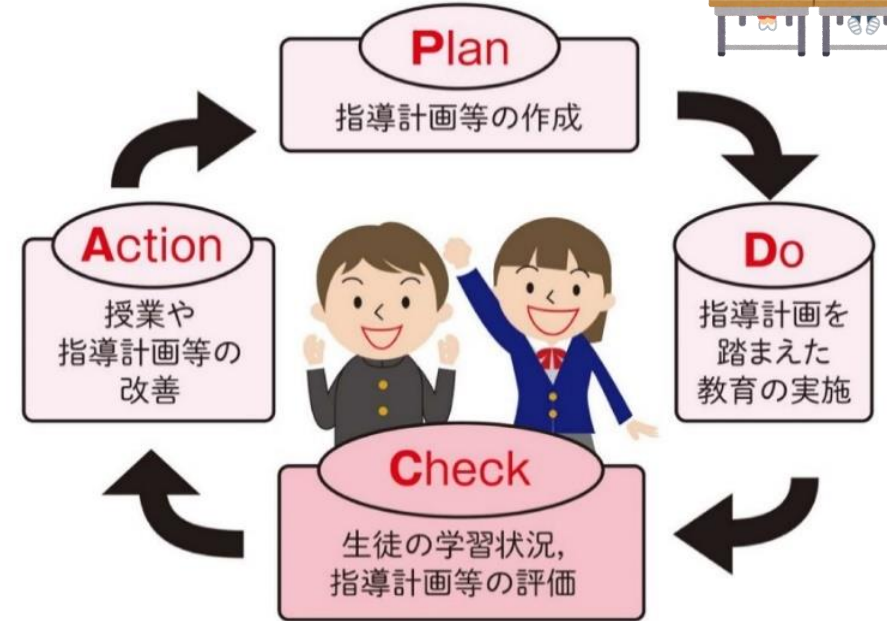
### ■課題の解決に向けて

- ・ 事前に評価計画を立てることが重要である。特に形成的評価はタイミングをのがしては効果がない。
- ・ 生徒の資質・能力を伸ばすためには、生徒自身が気づき、自身の制作過程を整理する時間、振り返りが有効である。ただし、何について考え、できるようになったらいいのか、など、その題材での学習のポイントが明確になっていないと効果的に働かない。そのため、ワークシートの問いは、題材のねらいに応じて、吟味したものでなければならない。
- ・ 評価について、学期ごとの総括的評価だけだと、それぞれの題材の目標の達成度合いが、どうだったのか、評価の具体がわかりにくい。成果についてはタイムリーに伝えていくことが必要である。

### ■今後さらに検討すべきこと

- ① 「おおむね満足である状況（B）」に幅があるため、生徒自身が自分がどの位置にあるのかを自覚しにくい。教員間でも共有することが難しい。
- ② 目標を明確にするために、事前に示す判断基準（ABC）について、その内容の達成ばかりにとらわれてしまい、自由に発想し、表現する独創性が発揮できない生徒もいる。評価のための制作におちいる危険性がある。「もっと自由に絵が描きたい」という生徒の声もあった。判断基準を事前に示すことに難しさがある。

## 指導と評価の一体化



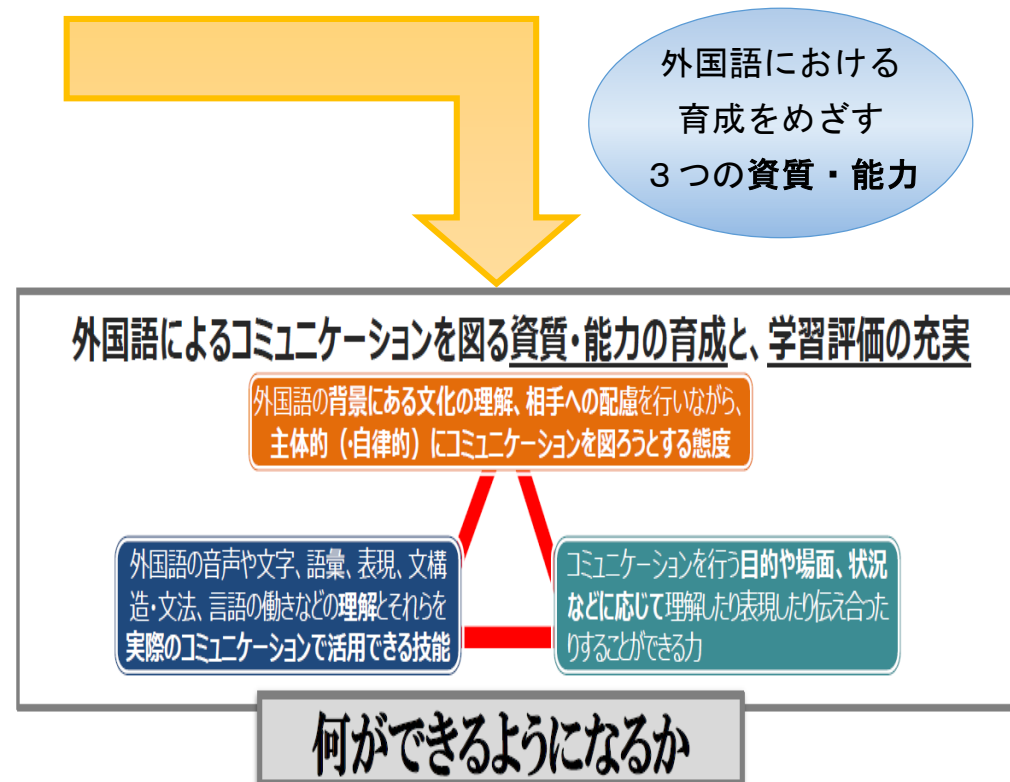
学習評価を、学習指導の  
「PDCAサイクル」に位置付け、  
授業改善につなげていこう！

「美術の教育」ではなく、  
「美術を通じた教育」の視点で  
見直してみよう！

# 外国語科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- 4技能5領域をバランスよく育成することが求められる中、精読や問題演習等の「読むこと」が大部分を占めている。
- グローバル化が急速に発展する中、生涯にわたる様々な場面で外国語を用いてコミュニケーションを取ることが想定されるが、「やり取り」や「即興性」の要素を含む言語活動が十分に実施できていない。
- 読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を結び付けた言語活動が十分に行われていない。



## 上記課題を解決するために必要だと考えられること

- 「知識及び技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すこと。
- 生徒が興味をもって取り組める言語活動を段階的に取り入れたり、自己表現活動を工夫したりするなど、様々な手立てを講じること。
- 即興でやり取りする場面において、相手の理解を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を返しながらいちように意識させること。
- 授業等での言語活動を通して、自分にどのような力が欠けているか、どのような学習が更に必要かなどを自ら考え、それぞれが授業での言語活動を充実させるための努力を授業外でも続けようとする自律的な態度を育むようなしかけをすること。

<実際のコミュニケーションの場面において活用する際のポイント>

### 目的

英語を用いて、何をする（何ができるようになる）ための言語活動なのか

必然性

### 場面・状況

目的を達成するために、どのような場面や状況を設定して言語活動を行うのか

自分事

- ①聞き手に合わせて話す速度や情報量を調整
- ②読み手に合わせて使用する語句や文、情報量を調整
- ③話し手に使用する語句や会話、発表の仕方を提示
- ④書き手に書く際に有用な語彙や表現などを提示



## 課題解決に向けた具体的な実践例

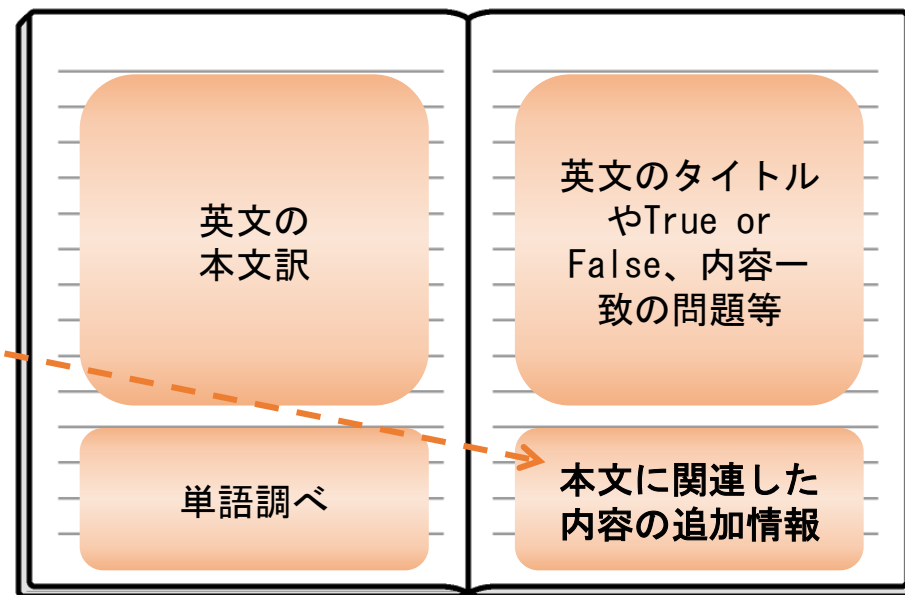
- 課題解決に向けて教科として話し合ったこと
- 「スモールトーク」等で特定の話題や語句等について、生徒が**即興で自分の考え等を話す**場面を設定することで、コミュニケーション能力が向上するのではないか。
- 予習状況を確認する際に、生徒が前向きに学ぶことができるようなフィードバックをするとともに、スタンプ等を活用して**学習状況を可視化**することで、メタ的に学習状況を捉えられるのではないか。
- 予習を単語の意味調べや日本語訳だけで完結させるのではなく、本文の内容に関する追加情報を調べることで、**探究的な要素**を入れられるのではないか。
- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために教員と生徒、生徒と生徒の**インターアクション**を充実させることで、**協働的な学び**が促進するのではないか。
- 教員がモデルとなって英語を使用するとともに、生徒の発話に対して適切なリキャストを行うこと等により、英語学習のモチベーションが向上するのではないか。



【スモールトーク】

○特定の話題について、その場で即興で自分の考えを相手に伝えたり、相手の話す内容について質問したりすることで国際社会で求められる英語力の向上が期待できる。

○毎時間、授業の帯活動として継続することで、授業中に英語を話す雰囲気作りに効果的である。



【予習ノート】

## ●ある府立高校の実践事例

### 単元の指導と評価の計画

科目名：英語理解（２年）

単元名：Selective Breeding—How man's best friends were created—

#### 1 単元の目標

- (1) 社会的な話題である「犬の品種改良の長所と短所」に関する説明を読んだり聞いたりして、必要な情報や考えなどを理解したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。
- (2) 社会的な話題である「犬の品種改良の長所と短所」に関する理解を基に、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを詳しく伝えることができる。
- (3) 社会的な話題である「犬の品種改良の長所と短所」に関する背景知識や語彙・文法事項などの学習に主体的に取り組むことができる。また、学習内容や小テスト等の結果に応じて自己の学習を調整することができる。

#### ポイント

本文の内容を理解することがゴールではなく、学習した題材に関する語句や表現等を実際に活用することが重要。

本文に記された情報だけでなく、「自分の意見や考えを伝えられるようになって欲しい。」という育てたい生徒の姿を記載することにより、単元計画を立てる際に、各時で身に付けておくべき英語運用能力を明確にする。

#### 2 単元の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
犬の品種改良の長所と短所について、必要な情報や考えなどを理解して、概要や要点、詳細を捉えることができる。	犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えることができる。	犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えようとしている。



3 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時間	学習内容	主な評価規準 (評価方法)
第1時 第2時	Lesson 7 Part 1: Why can you say dogs are an invaluable part of human society? 犬と人間とのかかわりについて理解する。	【a】（小テスト） 犬の品種改良の長所と短所について、必要な情報や考えなどを理解している。
第3時	Lesson 7 Part 2: What are the purposes of selective breeding? 犬の品種改良の利点について理解する。	【b】（週末課題） 犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えることができる。
第4時 (本時)	Lesson 7 Part 3: What do many people think about pit bulls? 犬の品種改良の欠点について理解する。	【a】（小テスト） 犬の品種改良の長所と短所について、必要な情報や考えなどを理解している。
第5時	Lesson 7 Part 4: What can you say about the relationship between dogs and humans? 品種改良の是非について議論する。	【a】（小テスト） 犬の品種改良の長所と短所について、必要な情報や考えなどを理解している。
第6時	Lesson 7 Part 4 B: What can you say about the relationship between dogs and humans? 品種改良の是非について議論する。	【b】（週末課題） 犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えることができる。 【c】（振り返り） 犬の品種改良の長所と短所について、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えようとしている。

ポイント

第6時に品種改良の是非について議論することができるように、背景となる知識を豊かにさせるとともに、賛成・反対やその理由を伝える表現方法を提示する。

ポイント

学んだ内容を踏まえ、アウトプットする場面を設定することで、生徒の英語運用能力の向上の状況を見取り、形成的評価を行う。

ポイント

第6時で求められる力を発揮することができるように、何のために、なぜ本文を読むのかの動機付けを前時まで十分にしておく。また、どこまでできていれば、「十分満足できる状況【A】」または「おおむね満足できる状況【B】」なのかを想定しておく。

外国語

\* 「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点における総括的評価は、定期考査においても行う。  
\* 「主体的に学習に取り組む態度」の観点における総括的評価は、小テストや予習、週末課題、振り返りなどへの取り組みをもとに行う。

## 4 第4時の展開

### (1) 本時の目標

- ・前時の内容「犬の品種改良の利点」について、本文に書かれた情報や自分の考えを英語で表現することができる。
- ・本時の内容「犬の品種改良の欠点」について理解することができる。また、「犬の品種改良の欠点」の文章を聞き手に伝わる英語で音読することができる。

### (2) 本時の評価規準

- ・授業の予習に主体的に取り組んでいる。
- ・前時の内容について、本文に書かれた情報や自分の意見を英語で表現している。
- ・本時の内容について、本文の語彙、文法事項、構文分析に基づき理解している。

### (3) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
10分 導入	あいさつ&スモールトーク [2 min]  小テスト(単語) [6 min] ・Lesson 7の新出単語を中心とした単語テストに取り組み、その場で解答を確認する。  Answer Check [2 min] ・Lesson 7 Part 3の予習で解答した答えをフォームに入力し、クラス全体で解答の傾向を確認する。	ペアでの積極的な英語の発話を促す。  クロームブック(クラスルーム)を活用した小テスト。  小テストを実施している間に机間指導をして予習状況を確認する。主体的な取り組みは予習したノートにスタンプを押すなどして積極的に褒める。生徒の予習内容で授業で紹介できる内容があれば授業に組み込む。	前時の内容で扱った単語等について理解している。(小テスト)
15分 展開1	Review (Part 2) 1. Picture Guessing (3 min) ・前回の授業で扱った新出単語を中心に4語ずつ、相手に伝わるように英語で説明する。  2. Review Questions (12 min) ・前回の授業で扱った長文に関する内容理解問題を英問英答形式で解答する。	間違いを恐れずに主体的に英語を話すように促す。正解に応じて、スタンプを押すなどして積極的に褒める。ジェスチャーに頼りすぎないように留意させる。  グループでの対話的・協働的な学びを促す。指名が特定の生徒に偏らないように留意する。	前時の内容について、本文に書かれた情報や自分の意見を英語で表現している。(机間指導等)

### ポイント

生徒が英語でコミュニケーションを取ろうとする雰囲気づくりをするために、多様な言語活動をスモールステップで取り組むことができるように工夫をした。

(例)

#### ○ペアでの活動

前時の新出単語を交互に説明し合い、その単語を推測する言語活動

#### ○グループでの活動

前時の英文の内容の質問に4人1グループで回答を協議し、全ての人が発言する機会を確保する言語活動

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
35分 展開2	<p>Reading Practice (Part 3)</p> <p>1. Listening Comprehension [5 min]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音声を聞いてメモを取る。自分の理解した内容をペアで確認する。1回目は全体の概要を掴む、2回目は詳細を理解することを意識する。</li> </ul> <p>2. VocaBuilding [5 min]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新出単語の音声を確認しながら口に出して練習する。語彙の使い方や語源・同義語・対義語などの解説を聞きながら語彙に関する知識を拡げる。</li> </ul> <p>3. Ondoku Practice [5 min]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チャンクごとで長めのポーズが置かれた英文を聞いて、チャンクごとにリピートする。スラッシュで英文を区切りながら意味のカタマリを確認する。</li> <li>ペアで交互に英文を音読する。</li> </ul> <p>4. Reading Comprehension [15 min]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文にある1文1文の文構造や文法事項をスライドを見ながら確認していく。</li> <li>文の構造を正確に理解し精読力をつける。</li> </ul> <p>5. Answer Check [5 min]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアでそれぞれの選択肢を吟味し、解答の根拠や疑問点を明確にする。</li> <li>スライドを見ながら予習の答え合わせを行う。</li> </ul>	<p>ペアでの対話を通じて自分が聞き取れていない箇所を明確にし、理解を深める。</p> <p>注意すべき発音・アクセントに関してはマーカーをしながら意識させる。</p> <p>対話的な学びを促すために、様々な観点から発問や問いかけをする。ペアワークを通じて本文内容の深い理解につなげる。</p> <p>予習のAnswer Checkで正解率の低かった問題はペアで考えさせる。</p>	
5分 まとめ	<p>Ondoku Practice</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チャンクごとで短めのポーズが置かれた英文を聞いて、チャンクごとに英文をリピートする。</li> <li>文字が消えていくスライドを見ながら、英文を音読する。</li> <li>ペアで背中合わせになり、交互に英文を音読する。</li> </ul>	<p>スライドの文字が見えづらい生徒に関しては、冊子を音読するように伝える。</p> <p>ゲーム感覚で楽しく音読に取り組ませる。</p> <p>相手に伝わるような音量・発音を意識させる。</p>	<p>本時の内容について、本文の語彙、文法事項、構文分析に基づき理解している。(机間指導等)</p>

ポイント

教員の一方的な説明にならないように、生徒へテンポよく多様な質問をし、生徒とやり取りをしながら、語彙の働きや使用場面を意識させることに留意した。

ポイント

授業冒頭に生徒がフォームで回答した本文の内容一致問題について、全体の回答状況から教員が改めて生徒へ考えを深めて欲しい部分を示し、ペアで授業前後の考えの変容を協議した。

<対話的な学び>



互いの考えを比較する

<深い学び>



思考して問い続ける

## 実践の振り返りから考えられること

- 外国語において、主体性で重要となることは『相手意識』を持ってコミュニケーションを取ることである。例えば、「スモールトーク」の場面で、話し手は相手に伝わる適切な声量やアイコンタクト、ジェスチャー等を意識する必要があり、聞き手は相手の話したことに適切に相槌を打ったり、復唱や言い換え、質問をしたりすることが『相手意識』を意識した言語活動になると考えられる。
- 授業を実際のコミュニケーションの場面とするためには、教員が英語を使用するモデルとなるとともに、授業中に生徒が英語を話しやすい雰囲気づくりと話すために必要な支援を行うことが求められる。例えば、前時の復習を行う際に、教員の英語の質問に対してグループ単位で回答を考えるとともに、どの生徒も発言する機会があるようしかけをすることにより、英語を話すことにあまり自信が持てない生徒も同じグループのメンバーの協力を得ながら協働的に学ぶことが可能となると考えられる。
- 学んだことをアウトプットすることが重要である。自分で表現したり他者の意見を聞いたりする過程で理解が深まり、英語でコミュニケーションを取っておもしろさや達成感を実感することができる。そのことが主体的で自律的な学習者を育成につながると考えられるので、何のためにコミュニケーションを取するのか、生徒にとって意味あるものとしていく工夫やしかけが必要となる。



# 家庭科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

## 「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

- ① 生活における課題を発見し、その解決策を考える機会を設定するが、日常生活に不便さを感じる事が少ないこともあり、生徒自身で課題を見つけにくい。
- ② 従前から毎回の授業で課題を課し、そこから主体性を見取ってきたが、そもそも生徒が「主体性」を発揮した姿がどのようなものかを十分にイメージできていない。

家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用性が高いなどの成果が見られる。一方、（中略）家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分でないことなどに課題が見られる。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）平成28年12月21日（一部抜粋）」より

便利で快適な生活の中で、生徒は不便さを感じていない…

校内で教科の悩みを共有できる人が少ない…

採点業務や校務が多忙で、落ち着いて考える時間がなかなかとれない！

学習指導要領では原則 5 / 10 以上の実習・実験に配当となっているけれど…

実習や実験の準備後片付け、予備実習や安全確認の時間が取れない！！



めざす像とは…？それをどうやって評価しようか！？

## 上記課題を解決するために必要だと考えられること

- 生徒が学習を自分事と感じられるような問いかけをしたり、考えるヒントを投げかけたりすること。
- 授業において、社会で起こっている事象を積極的に話題にあげること。また他教科の教員や学年団の教員とコミュニケーションをとり、様々な場面で社会的事象を取り上げ、生徒が社会に関心を持てるようにすること。
- 学校だけで生徒の学習を育成しようとするのではなく、保護者等とコミュニケーションをとる必要がある課題を課すなどにより、実生活での課題や現状を知るきっかけを作ること。
- 学びのハブとして、様々な教科・科目と連携した授業実践を行うこと。
- 単元における「本質的な問い」や、家庭科がめざす「自立とは何か」を明確にし、問いを解決したときに身に付けていてほしい資質・能力を考えること。



この到達目標は適切かな？

目標へ到達するには何が必要だろうか？

自立に必要なことは何だろうか？

生徒にとって、身近で役に立って、興味を持つような題材・課題は何だろうか？



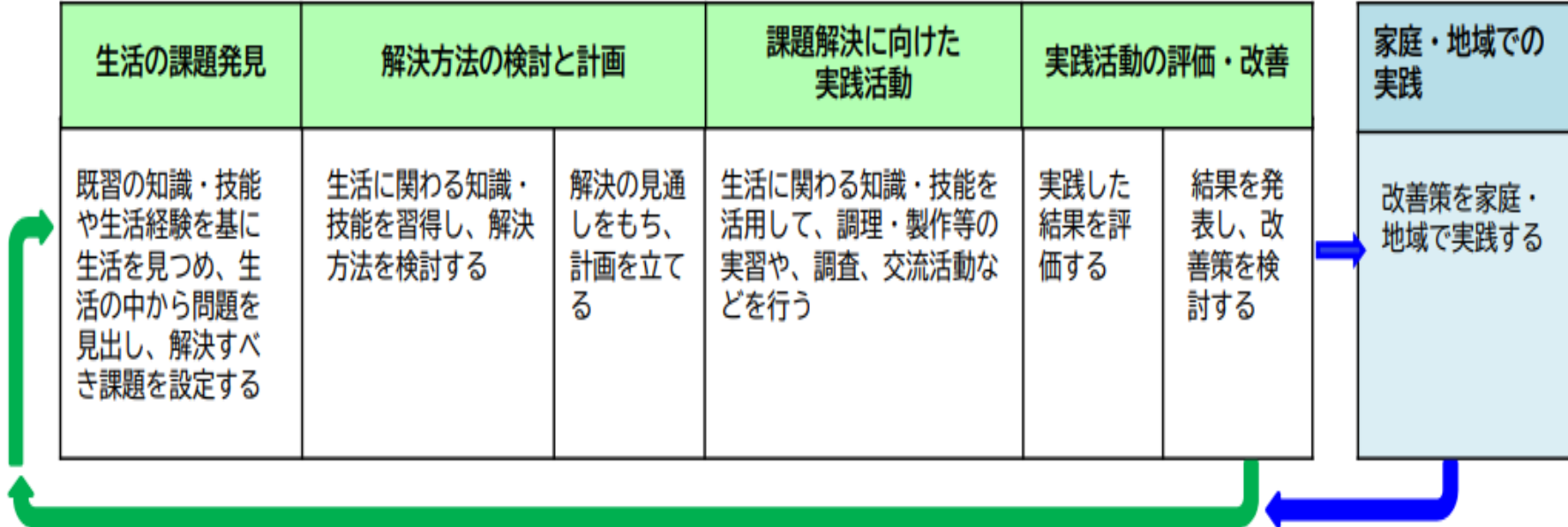


生徒の主体性を発揮できる場面を設けるために

- ・まずは、到達目標を明確にすること
- ・次に単元終了時の到達イメージを生徒と共有すること
- ・そのうえで、下表のような学習過程を踏んでいくこと



## 家庭科, 技術・家庭 (家庭分野) の学習過程のイメージ



# 課題解決に向けた具体的な実践例

## ● 課題解決に向けて教科として取り組んだこと

### ① 家庭科における指導と評価の一体化

府立貝塚高等学校における実践

単元：「ささえあって生きる」

単元の評価規準		
知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【主】
1, 事例研究などを通して、家族や家庭の在り方について検討する技術を身に付けている。 2, 生涯発達の視点から、家族・家庭の意義・社会との関わりなどについて理解し、人の一生の課題として捉えるための知識を身に付けている。	1, 家族・家庭と社会との関わりについての課題を見出すことができる。 2, 家族・家庭に関する情報からそれらが抱える問題について積極的な解決をめざし考えることができる。 3, 自分の意見やグループでの協議したことを文字、イラスト、表、グラフ、ロールプレイなど様々な手法を用いて表現することができる。	1, 家族・家庭の意義や役割、男女の平等と相互の協力などについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 2, 与えられた課題について、自分の意見を共有することで、深めようとしている。 3, 自分の取り組みを振り返り、課題に取り組んだ後に自分の変容に気づこうとしている。

#### ポイント

この単元を通して「家族・家庭の在り方や社会との関わりなど、柔軟な考えができてほしい！」とめぐる思いを込めた目標に対する評価の規準を考えます。

#### ポイント

単元の目標を達成するためには、どんな仕掛けや題材の設定が適切か考えます。

### 多様な学びの提供

- 例えば…
- ・ ワークショップ、実験実習
  - ・ 外部講師とのコラボ授業など授業形態に取り入れる
  - ・ 発表の機会を多く設定（個人・グループを問わず）
  - ・ ダイアログ（対話）の手法を取り入れた授業展開の実施

↓  
試行錯誤すること、取り組みや振り返りの深まりに繋がる

### 振り返る機会の設定

- 例えば…
- ・ 毎時間、少しでも振り返りの時間を設ける
  - ・ 振り返りの方法の練習にする
  - ・ 浅いテーマから深いテーマへ進められる
  - ・ 自己評価＋相互評価も行える
  - ・ 対話を通じた振り返りで客観性などの柔軟さや深みが出てくる

↓  
次の授業への取り組みやパフォーマンス課題への取り組みにも好影響が出る

## ② ワークシートの活用

### パフォーマンス課題に向けたワークシート（ライフプラン）

家庭基礎 課題	ライフプラン～生活設計をしよう～	教科書 20～21	1年( )組( )番 名前( )			
------------	------------------	--------------	------------------	--	--	--

1、近い将来の自分を考えよう。

① 5年後や10年後の自分を想像しよう。必ず実現したいことは何だろうか。

5年後( 歳) ・必ずやってほしいことは?	10年後( 歳) ・必ずやってほしいことは?	( 歳)頃の目標は…	今、やることは?	必要な資質は?
--------------------------	---------------------------	------------	----------	---------

2、生涯にわたるライフプランを立てよう。

① 将来の自分を想像して、長期的な目標を立てよう。何歳頃に、何をしていたらだろうか。

② ①の実現のために、中期的・短期的な目標を立てよう

③ 目標に向けて何をすべきか、何を身につけていけばよいか考え、歩みたい人生を具体化してみよう。

	15	20	30	40	50	60	70	100
目標(やってほしいこと、持っていたいもの、身につけていたい能力など)								
働く								
人と生きる								
学ぶ								
楽しむ								

④ ライフプランを立てて気づいたこと

⑤ 30代までのイベントを1つ、自分の想定と異なるものに変えてみよう。  
想定と異なるイベント \_\_\_\_\_ を \_\_\_\_\_ に変える

⑥ ⑤のような転機において、その後のキャリアを充実させるために必要な力や大切なことは何か。

ポイント

- ・ 普段のワークシートとは別に、これまでの単元の学びをいったん確認する課題として設計します。
- ・ 1回1回の授業がどうつながっているかが分かるような工夫をします。

ポイント

- ・ 普段のワークシートとまとめのワークシートの役割の違いを意識します。
- ・ 普段のワークシートは、形成的評価に徹します。生徒にとって、ワークシートの書き方、考え方の練習となります。
- ・ 普段のワークシートでは、教員が生徒の理解度を把握して、フィードバックやアドバイスを行います。

ポイント

このワークシート自体も総括的評価の場面とすることも可能。今までの学習内容を活用して探究活動に取り組むことができているかについて、見取ります。

学んでいることと、今の自分とのつながりを考えられるように設計した。



各項目の関係を生徒が自ら見いだせるように並べて比べられるようにした。

課題を解決するために試行錯誤した過程を振り返られるようにした。



## パフォーマンス課題（人生すごろく）

### ① ルール

- ・スタート、ゴール以外で、ライフイベントが書かれたマスに20マス以上つくる。
- ・スタートは高校入学とする。
- ・ゴールは何歳でも良い。
- ・マスの書き方は下の〈例〉を参考にしてもよい。

〈例〉

30歳  
結婚する  
みんなから祝福されて  
2つ進む

45歳  
通勤中に事故に遭う  
1回休み

マスに書く内容

- ◎年齢
- ◎ライフイベントの内容
- ◎プレイヤーに対する指示

- ・スタートからゴールへの道筋は自由とする。
- ・各マスの形も自由とする。
- ・イラストを描く、色を塗る等自由に工夫する。

課題を作品にするために試行錯誤した様子を見取れるようにした。

なぜこのイベントが必要なのかを考えられるようにした。

試行錯誤した過程を見取れるようにした。

●生徒は今までの学習内容を再整理し、再構成する

効果としては…

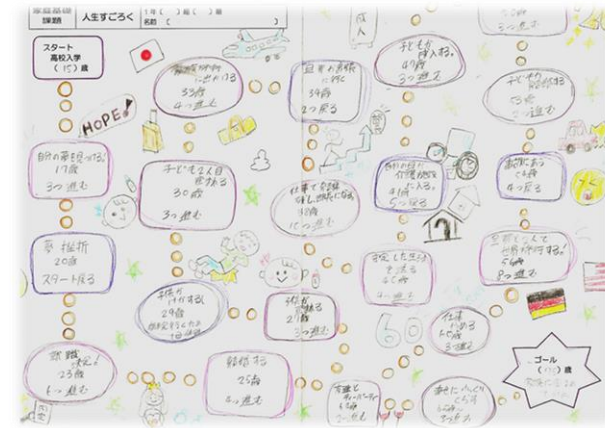
- ・振り返ることで再整理できる
- ・積極的に自身の今後の生き方や在り方を考えられる
- ・これまでの気づき（主体的な活動を促すための仕掛けでの）を反映することができる



生徒自身の深まりや考えを問い直す「学びを調整する力」やゲームを面白くするために何度も考え直す「粘り強さ」につながる

教員の見取りは…

- ・仕掛けと課題の取組の統合の確認ができる
- ・振り返りに深まりやゴールに厚みがあるか確認ができる
- ・最初の問いかけから変容が確認できる



# 生徒の成果物や実践の振り返りから 考えられること

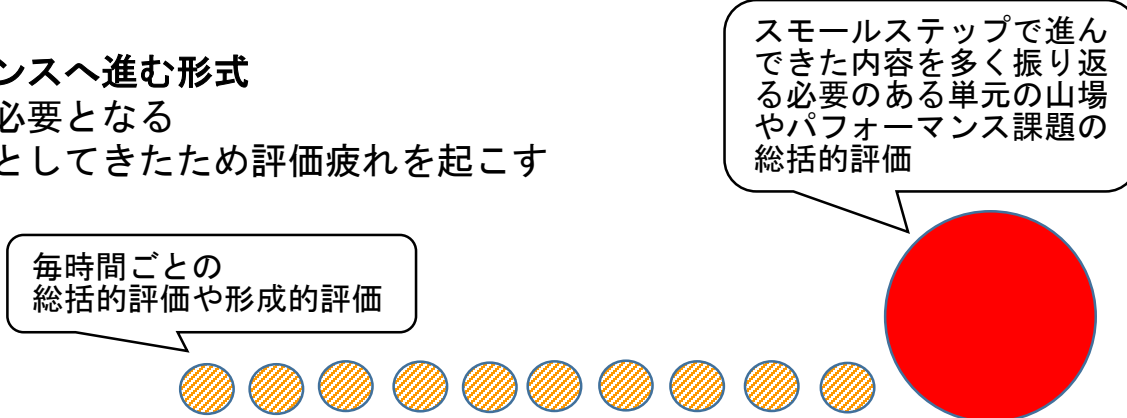


## □ 単元の進め方の再検討

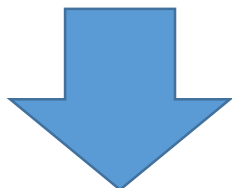
### 【従来の単元の進め方】

#### スモールから大きなパフォーマンスへ進む形式

- ・最後にいきなり大ジャンプが必要となる
- ・スモールも総括的評価の材料としてきたため評価疲れを起こす



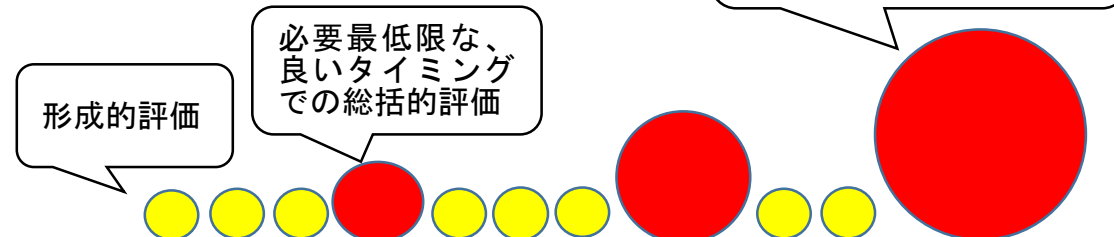
- ・生徒の理解度が授業毎に分かり、つまずきに気づくことができる
- ・最終的な目標像へ生徒自身が変容する過程や、学びを統合する機会がない



### 【今後の単元の進め方】

#### 中間にこれまでの単元を振り返る機会をもつ形式

- ・まとめる練習の機会があり、ステップの差が小さい
- ・普段は形式的評価に徹して、総括的評価の場面を少なくして指導に専念する



- ・精選された総括的評価の計画により、学びを統合する機会が持てる
- ・単元の山場へのステップの練習となり、振り返りやすくなる
- ・変容の見取りも容易になる

- パフォーマンス課題の設定と活用
  - ・パフォーマンス課題の中で「主体的に取り組む態度」も見取る
  - ・そこに至るまでの単元の構成を検討

見取る内容は…

- ・「取り組むことができる力」、「共有し深めることができる力」、「気づくことができる力」
- ・ワークシートでは、「自身の成長、変容」を見取る

- 評価の視点の見直し
  - 生徒が主体的に取り組んだ過程や自立への視点を、
  - ・「表現できるような課題になっているか」
  - ・「興味を持って取り組んでいるか」
  - ・「自立につながっているか」



適切な支援につながる



ポイント

他者との意見交流を通して、自身の不十分な点や矛盾点を「粘り強さ」、「学びの調整力」が現れる

思考力、表現力、判断力が育ちながら  
自立へ向かう主体性も育成される

●今後の課題

グループで行う題材や課題の場合は…

グループ単位で表れた成果の中で、個人のパフォーマンスをどのように引き出すか、そのパフォーマンスをどのように見取ることができるかについても、今後検討する必要がある。

